

阪大 一地域に生き世界に伸びる一 NOW

トピックス

新旧総長歡送迎会を開催

クローズアップ

大阪大学グリーン・イニシアティブ・プロジェクト
一省エネから低炭素化へー



2011 10月号
No. 127

目次

トピックス	2
クローズアップ	4
役員室だより	8
80周年	19
ナウススペシャル	22
キャンパスニュース	28
記念講義	45
表彰等	47
人事	49
訃報	55
インフォメーション	58
職員インタビュー	63
海外拠点だより	64
交流協定大学・編集後記	66
クラブ&サークル	67
トピックス	68



サイバーナイフ

表紙写真：サイバーナイフ

がん治療に用いる放射線治療装置で、アームの先端に小型リニアックを取り付けた構造を持ちます。リニアックとは電子を加速し X 線を照射する装置で、放射線に弱いがん細胞を狙い射ちします。阪大病院に設置されているサイバーナイフは、2 台の X 線透視カメラで患者の動きを認識しながら 6 軸制御ロボットアームで腫瘍にピンポイント照射できます。全世界で毎年 2 万人がサイバーナイフ治療を受けており、病院ではさらに高性能の機種への更新を予定しています。

表紙デザイン：株式会社ココティエ

新旧総長歓送



固い握手を交わす新旧総長



金森元総長のご発声による万歳三唱

迎会を開催



熊谷元総長のご発声による乾杯



名誉教授称号の辞令書を読み上げる平野総長
左は鷺田前総長



工藤センター長から花束を受け取る鷺田前総長



8月25日（木）をもって任期満了により退任された鷺田清一前総長と、8月26日（金）から新たに就任された平野俊夫総長の新旧総長歓送迎会が、9月22日（木）リーガロイヤルホテル光琳の間で開催されました。

この会は、部局長会議の構成員が発起人となり開催されたもので、熊谷信昭、金森順次郎、岸本忠三の各元総長、名誉教授および現教職員の約160名が参加しました。

はじめに、発起人を代表して東島清理事・副学長の挨拶が行われ、鷺田前総長には、これまでの大学運営に対する感謝のことばが、平野新総長には、これから本学が総合的に発展するよう導いていただきたいとのことばが述べられました。

続いて、鷺田前総長から、副学長、総長と7年半の在任中と最近の出来事でとても嬉しかったこととして、七大戦（全国七大学総合体育大会）で2期連続の主幹校破りのうえ、2連覇したこと、創立80周年を迎えた年に大阪大学会館が完成したこと、ある講演会の参加者から「阪大がとても近くなった気がする」

と言われたことなどの紹介があり、最後に、これまでご支援いただいた部局長、教職員、名誉教授の先生方に対して感謝のことばが述べられました。

また、平野新総長から、鷺田前総長ら前執行部の業績に対して敬意が表され、また、阪大が22世紀も輝き続ける大学として存在できるよう基盤創りに尽力したいとの抱負が述べられました。

引き続き、熊谷元総長のご発声で乾杯が行われた後、両総長、参加された名誉教授、教職員の歓談が行なわれました。

最後に、工藤眞由美大学教育実践センター長から鷺田前総長への花束贈呈、金森元総長による万歳三唱が行われ、盛会のうちに閉会となりました。

なお、この会に先立ち名誉教授称号授与式が行なわれ、新役員が全員出席のもと、平野総長から、鷺田前総長、門田守人、高杉英一の各前理事・副学長に対して名誉教授称号の辞令書が手渡されました。

（総務企画部総務課）

大阪大学グリーン・イニシアティブ・プロジェクトー省エネから低炭素化へー

環境・エネルギー管理部

環境・エネルギー管理部長・理事 馬場 章 夫



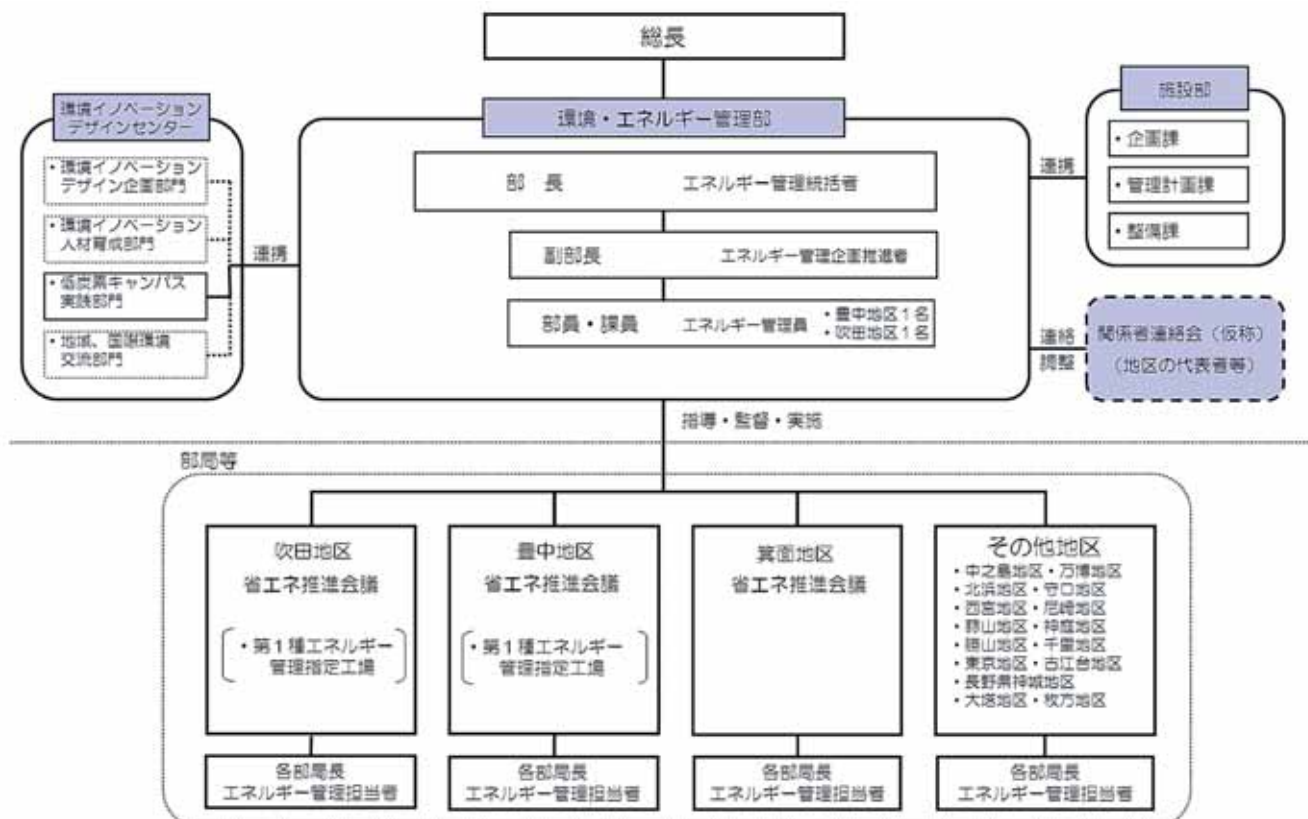
環境・エネルギー管理部は、大阪大学のエネルギー消費を管理し、地球温暖化対策を計画・実施する部署として本年6月に設立されました。

大阪大学は、大阪府下でも有数の温室効果ガス排出事業者であり、特に吹田キャンパスでは市内最大の排出事業者となっています。2007年に発表されたIPCCの第4次報告書では、地球の気候変動が人間活動に伴う温室効果ガスの排出であるとほぼ断定され、地球全体で2050年頃までに温室効果ガスをほぼ半減（先進国ではおよそ8割の削減に相当）する目標が国際社会で合意されようとしている中、本学においても、法的、社会的責任としてエネルギー消費の削減努力が求められています。

本学におけるエネルギー消費上の特徴は病院や大型実験施設に係わるエネルギー消費の大きいことです。これらの省エネルギーは、研究・診療内容に直接係わる部分だけに難しい部分がありますが、実験の内容をチェックし、エネルギー消費の無駄を発見して設備の更新や実験プロセスを改良することは、これからの研究者・技術者に必須のスキルであるとも言えます。また、本学の環境分野の研究・教育の強みを生かし、大学施設における一般的な省エネルギー努力と平行して、環境イノベーションデザインセンターとも連携しつつ、今後のグリーンイノベーションを先導する研究と、それを担う人材育成を行うための舞台として、キャンパスを活用できるような試みも進めて行きたいと思っています。

この夏は、東日本大震災に起因した政府や関西電力による節電の要請に対し、大阪大学でも大規模な節電への取り組みを実施し、構成員の皆さんのご協力により所定の成果を挙げることができました。しかし、今回のような節電活動は快適性を犠牲にしてエネルギー消費を下げる「我慢の省エネ」であり、中長期的には設備・施設の更新で勉強・研究・執務において大きな我慢を強いることのない持続可能な省エネルギーを目指す必要があります。

大学の叡智を結集し、21世紀の地球温暖化問題に対処する大学キャンパスのモデルを世界に発信すべく、今後とも皆さんのご協力をお願いいたします。



大阪大学環境・エネルギーの管理体系

グリーン・イニシアティブ・プロジェクトについて

■目的

深刻化する温室効果ガスの排出に伴う地球温暖化に対して温室効果ガスの削減に向けて、低炭素キャンパスを実現するため、大学の先導的な取り組みや、教職員及び学生一人一人の理解・行動を促進し、削減目標を設定して、実効性と継続性のある低炭素化対策に向けて取り組みを進めます。

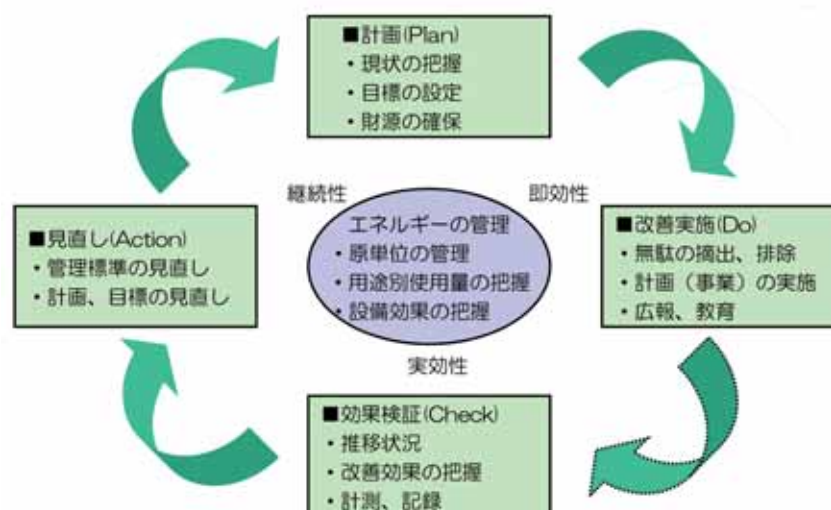
■対策の骨子

本学では教育研究活動の質を低下することなくエネルギー消費の節減を進めてきましたが、教育研究活動の高度化に伴いエネルギーの消費は年々増加する傾向にあり、従来の取り組みでは、成果が期待できないと予想されます。このことから、

環境負荷の軽減のために、新たな対策として省エネルギー・低炭素化に効果があり、本学の教育、研究及びエネルギー使用の実施を踏まえオリジナリティの高い計画として、下記の3カテゴリにより各々の対象に応じた対策を進めていく計画を策定します。

- ・理科系部局の比率の高い本学の特徴として、理科系研究施設の省エネルギー対策を特徴として位置づけます。
- ・本学の研究成果をアピールするためのショーケース化等、教育的観点も考慮します。また、最近の研究成果で学内での実証実験が可能なものは積極的に取り入れます。
- ・学生の参加協力を含め、大学全構成員による協働の場とします。

G・I・P（グリーン・イニシアティブ・プロジェクト）のPDCAサイクル



□カテゴリ 1

対象：文科系部局、事務管理系、講義室等

- ・従来の省エネルギー対策、省エネルギーライフスタイル推進を強化
- ・建築設備に重点を置き、底の設置や躯体の断熱機密化及び高効率空調への転換、並びに照明機器等を省エネルギータイプへ更新

□カテゴリ 2

対象：理科系研究施設

- ・それぞれの専門領域に特有の省エネルギー対策が考えられるような制度づくり
- ・実験用フリーザー、ドラフトチャンバー等（特に24時間稼働機器）の一括リプレースやメンテナンスの実施
- ・研究科単位程度でエネルギー消費量の計測を行い、可視化を実施し、どれだけエネルギーを消費しているかの把握を行う
- ・調査検証したデータを専門分野単位にマニュアル化する
- ・専門領域毎に省エネルギーインセンティブが働く課金制度の導入

□カテゴリ 3

対象：大規模施設（病院施設、核物理、レーザー研等）

- ・プラントとして外部専門家の診断を含めた改修、運用改善を実施
- ・大規模施設に資金投入を行い、大きな省エネルギー効果を出し、得られた光熱費削減額を他の施設の省エネルギー対策費に充てる

省エネルギーの取り組みについて

今年6月に導入した電力可視化システムや、環境・エネルギー管理部が推進した夏季の節電・省エネに関して紹介します。

■電力可視化システム

「いつ」「どこで」「どれだけ」エネルギーが使用されているか把握することができるシステムです。本システムでは、各

団地の電気室単位（主な建物単位）で電力使用量を計測し、そのデータを学内ネットワークを利用して集め、学内向けポータルサイトに電力の使用状況を公表することができます。

今後、本システムにより得られたデータを公表・分析し、エネルギー使用の効率化・合理化を推進するとともに、大学構成員のさらなる省エネ意識の向上を図ります。

閲覧方法

【1】 マイハンダイ (<https://my.osaka-u.ac.jp>) にログインし、画面右ショートカットの『学内使用電力』をクリックします。

【2】 『学内使用電力情報』のページへ移動し、閲覧するキャンパスを選択します。

【3】 電力可視化のトップページ。電力日報、月報、年報のグラフ表示や建物ごとの比較、過去のデータによる比較が可能。

■夏季における節電・省エネ

関西電力（株）からの15%節電要請を受け、本学ではこの要請に応えるべく、節電・省エネの具体的な目標値（最大使用電力の前年度比15%など）、実施期間や方策を盛り込んだ「大阪大学節電・省エネ計画」を策定し実施しました。

「大阪大学節電・省エネ計画」の方策の一つ、「節電のためにできる80のこと」の主なものとして、照明の間引き、空調機28℃設定、よしずの活用など、各部局での努力によって夏の節電に大きな成果を出すことができました。



照明の間引き



空調機 28℃設定



よしずの活用

大阪大学節電・省エネ計画の結果

吹田・豊中・箕面地区7～9月の最大使用電力と使用電力量
【最大使用電力】

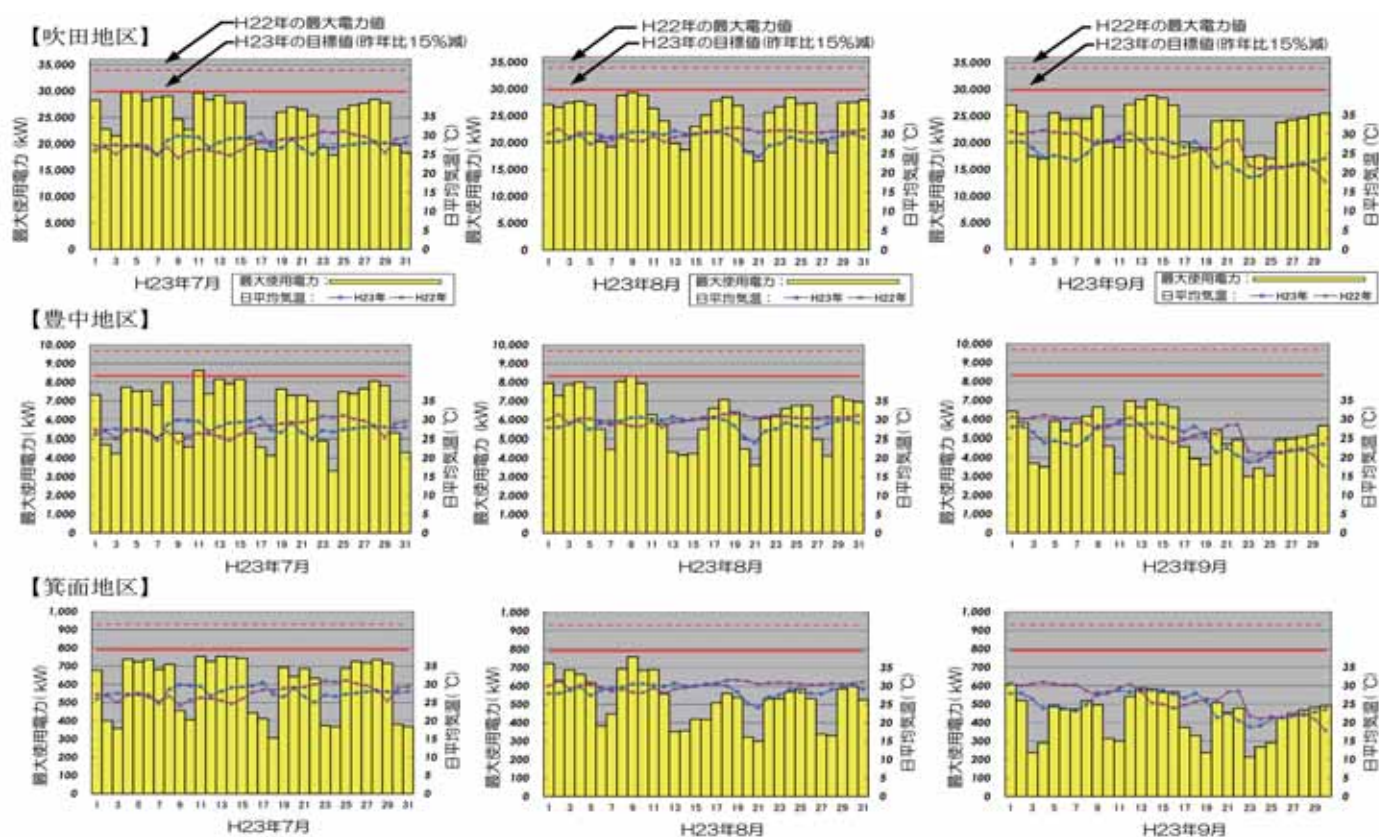
ほぼ目標は達成できましたが、目標値を超えた日が豊中地区において2日ありました。7/11(月)は7月の平日の日平均気温が最も高かった日であったのと、8/9(火)は理学部でオープンキャンパスを実施しており、多くの学生がキャンパスを訪れたのが影響したと思われます。それ以外の日につきましては、近畿地区の今年の梅雨明けは去年よりも早かったもの

の、7月後半、8月後半に平均気温が平成22年度に比べて低めに推移していたことと、大規模実験スケジュールの調整、発電機のピークカット運転、各部局の空調運転時間の調整、照明の間引き点灯などのご努力により、目標を達成できたと思われます。

【使用電力量】

節電へのご努力や昨年より気温が低めに推移していたこと等により、概ね目標とする水準で推移しました。7～9月の合計は、目標を達成いたしました。

■最大使用電力 (目標値：昨年比15%減)



■使用電力量 (目標値：昨年比12%減)

(単位：kWh)

		7月	昨年度 同月比	8月	昨年度 同月比	9月	昨年度 同月比	7～9月 合計	昨年度 比
吹田地区	H22年度	18,030,240		16,509,760		15,691,560		50,231,560	
	H23年度	15,708,680	-12.9%	14,850,360	-10.1%	13,684,980	-12.8%	44,244,020	-11.9%
豊中地区	H22年度	3,904,109		3,855,160		3,259,086		11,018,355	
	H23年度	3,534,281	-9.5%	3,361,902	-12.8%	2,752,312	-15.5%	9,648,495	-12.4%
箕面地区	H22年度	309,492		273,932		214,857		798,281	
	H23年度	275,308	-11.0%	240,367	-12.3%	193,410	-10.0%	709,085	-11.2%
上記3地区計	H22年度	22,243,841		20,638,852		19,165,503		62,048,196	
	H23年度	19,518,269	-12.3%	18,452,629	-10.6%	16,630,702	-13.2%	54,601,600	-12.0%

今後の課題：年々増加するエネルギー消費の節減や、社会的責務となっている温室効果ガスの削減にむけて、
「キャンパス低炭素化推進計画(仮称)」の策定に取組みます。

役員室だより

2011.10 Vol.44

大学の動き

経営協議会を開催

今年度第2回経営協議会を9月14日(水)に、中之島センターで開催しました。学外委員12名、学内委員13名が出席し、約2時間にわたり審議、意見交換が行われました。意見交換では、就任後最初の経営協議会となる平野総長が、本学の教育研究及び運営

に関する基本的な考え方を述べられた後、学外委員から、大学(組織)の人材育成の重要性、競争的資金の獲得が難しい分野への学内資金の配分、学生の就職に対するきめ細かな指導など様々な意見が出されました。

「大阪大学環境報告書2011」の公表

「環境情報の提供の促進等による特定事業者等の環境に配慮した事業活動の促進に関する法律(環境配慮促進法)」に基づき、本学における2010年度の環境パフォーマンスデータや環境保全活動を紹介する「大阪大学環境報告書2011」を作成し、公表しました。

本報告書の詳細は、大学公式ホームページに掲載しており、「法人情報の公表」ページからアクセスできます。

<http://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/information/joho/files/report11.pdf>



各室の検討状況

総合計画室

平成24年度計画の策定

第2期の3年目となる平成24年度計画の策定については、総合計画室の下に、各室から選出された室員で構成する「平成24年度計画作成検討ワーキング」を立ち上げ、同ワーキングで各部局、各室と摺り合わせしながら取りまとめることとしています。なお、策定スケジュールは次のとおりです。

【策定スケジュール(予定)】

平成23年10月～平成23年12月	各部局で部局年度計画を作成
〃 11月～平成24年1月	部局年度計画を踏まえ各担当室で大学年度計画(素案)を作成
平成24年1月	ワーキングで大学年度計画(原案)を作成
〃 2月	各部局、各室あてに意見照会
	部局の意見を踏まえワーキングで大学年度計画(案)を作成
〃 3月	関係会議に附議し、大学年度計画を策定
〃 3月30日	文部科学省へ提出

豊中キャンパス自転車登録制の実施について

豊中キャンパスでは従前からキャンパス内の大量の駐輪や阪大坂の自転車通行問題など、自転車の利用に際する安全上およびバリアフリー上の問題が認識されています。

豊中キャンパスにおける自転車の利用実態を正確

に把握し、構内の適正な駐輪環境を実現するため、10月から豊中キャンパス自転車登録制を試行的に実施することとなりました。

詳細は、本号インフォメーション（60ページ）をご覧ください。

教育・情報室

ファカルティ・ディベロップメント（FD）研修の開催

9月13日(火)に豊中キャンパス、9月16日(金)に吹田キャンパスで、全学FD研修が実施されました。今年で5年目を迎えた今回は、13日に金子元久 国立大学財務・経営センター教授による「大学教育の転換」、16日に荻上絃一 大学評価・学位授与機構特任教授による「大阪大学における教育の更なる改善のために」と題するご講演をいただきました。ともに現在の大学が置かれた状況と課題について、広い視点から明快に分析していただきました。

今年度も昨年度と同じく研修の時間を半日とし、研修前半で上記講習を開催し、研修後半の分科会については受講者による選択制としました。研修Aでは「TA制度の現状とあり方」、「教育の国際化」、研修Bでは共通教育賞等の受賞者による模擬授業「魅力的な授業づくりのポイント」、研修Cでは「社会人院生の集め方、育て方、送り出し方」というテーマによる3つの分科会を組織し、そこから選択していただきました。

本年度の参加者は、豊中キャンパスで141名、吹



田キャンパスで93名の参加がありました。

今回のような全学で行われる研修に参加することは、教員が授業内容・方法を改善し、向上させるための組織的な取組への第一歩となります。

各部局におかれましても、教員相互の授業参観や授業評価、授業検討会など様々なFD活動を通じて教育の質を高める取り組みを行っていただきますようお願いいたします。

大学院副専攻プログラム及び大学院等高度副プログラムの履修状況

「大学院副専攻プログラム」（平成23年度開始）及び「大学院等高度副プログラム」（平成20年度開始）は、大学院レベルの学生が幅広い領域の素養や複眼的視野を得るとともに、新しい分野について高度な専門性を獲得する学際融合的な教育プログラムです。本プログラムは、各実施部局及び学際融合教育研究センターが協力して推進しています。

平成23年度の履修状況は次のとおりです。履修者が多数にのぼる研究科や、多数の研究科の学生が混在して履修するプログラムなど、本プログラムの趣旨を実現している例が多数みられますが、さらに多くの学生の積極的参加が必要です。こうした制度の発展のために、皆様の協力をお願いします。

平成 23 年度 大学院副専攻プログラム申請者数（第 1 学期）

	プログラム名称	提案部局	受講 対象者	課程	文学	人間 科学	法学	経済	理学	医学系 (医)	医学系 (保)	歯学	薬学	工学	基礎 工学	言語 文化	国際 公共	情報 科学	生命 機能	高等 司法	連合 小児 発達	小計	合計	備 考
1	認知脳システム学	基礎工学研究科	M・D	M D		3								6	1			1				11	14	
2	金融・保険	金融・保険教育研究センター	M・D	M D		1	35	12						5	31			11	3			98	101	
3	ナノサイエンス・ナノテクノロジー高度学 際教育研究訓練プログラム(博士前期課 程高度学際教育副専攻プログラム)	ナノサイエンスデザイン教育研 究センター	M	M D				11						12	16				2			41	41	
合 計					M	0	4	0	35	23	0	0	0	23	48	0	0	12	5	0	0	150		
					D	0	3	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	6		
					計	0	7	0	36	24	0	0	0	23	48	0	0	12	6	0	0	156		

平成 23 年度 大学院等高度副プログラム申請者数（第 1 学期）

	プログラム名称	提案部局	受講 対象者	課程	文学	人間 科学	法学	経済	理学	医学系 (医)	医学系 (保)	歯学	薬学	工学	基礎 工学	言語 文化	国際 公共	情報 科学	生命 機能	高等 司法	連合 小児 発達	小計	合計	備 考	
1	アート・メディアロジー入門講座－理論と 実践	文学研究科	M	M D																		0 0	0		
2	イノベーションリーダー人材育成基礎プロ グラム	経済学研究科	M・D	M D			2						1									3 2	5		
3	医学科学修士の健康医療問題解決能力の 涵養	医学系研究科(医学専攻)	M	M D						8	1											9 0	9		
4	高度がん医療人材育成プログラム	医学系研究科(保健学専攻)	M・D	M D		1			1	1	1		1									5 2	7		
5	まちづくりデザイン学	工学研究科	M	M D	3	1				1				16				1				21 0	21		
6	高度溶接技術者プログラム	工学研究科	M・D	M D										20								20 0	20		
7	学際光科学	工学研究科	M・D	M D					2					7	5	1						15 0	15		
8	光通信及びフォトニックネットワーク工学	工学研究科	M	M D																		0 0	0		
9	キャリアデザイン ～高度な学びを活か すキャリアパスをデザインする～	工学研究科	M・D	M D	2		1	1						2	2			2	1			11 0	11		
10	国際標準化	工学研究科	M・D	M D	1	1		1						13	1							17 0	17		
11	量子エンジニアリングデザイン研究特別 プログラム	工学研究科	M・D	M D				1	1					3								5 1	6		
12	認知脳システム学	基礎工学研究科	M・D	M D	1	1					1	1		9	2			1	1			15 1	18		
13	言語情報処理の手法と展開 (旧応用自然言語処理理論と技術)	言語文化研究科	M・D	M D																		0 0	0		
14	グローバルリーダーシップ・プログラム	国際公共政策研究科	M・D	M D			1	1						1			2					5 0	5		
15	IT Spiral	情報科学研究科	M1	M D				1										13				14 0	14		
16	高度情報ネットワーク実践スペシャリスト	情報科学研究科	M	M D										2	1			5				8 0	8		
17	感染症学免疫学融合プログラム	微生物病研究所	D	M D						13									3			0 16	16		
18	インターカルチュラル・コミュニケーション の理論と実践	国際教育交流センター	M・D	M D		1										9						10 1	11		
19	臨床医工学・情報学融合領域の人材育 成教育プログラム・専門科	臨床医工学融合研究教育セン ター	M・D	M D		1			2	1	11		4	16	1			3				39 3	42		
20	臨床医工学・情報学融合領域の人材育 成教育プログラム・高度職業人育成科	臨床医工学融合研究教育セン ター	M・D	M D				1		2	4											6 2	8		
21	コミュニケーションデザイン	コミュニケーションデザイン・セ ンター	B5, 6 M・D	B D	7	10	2		2	1	5		1	8	2	1	2	4	1			45 3	49		
22	グローバル共生	グローバルコラボレーションセン ター	M・D	M D		5		1	1		1			1		2	1	1				13 0	13		
23	人間の安全保障と開発 (旧人間の安全保障・社会開発)	グローバルコラボレーションセン ター	M・D	M D		8			1	1				1			6	3				20 4	24		
24	司法通訳翻訳 (旧司法通訳翻訳)	グローバルコラボレーションセン ター	M・D	M D		5	2			2						6		3	1			13 5	18		
25	現代中国研究	グローバルコラボレーションセン ター	M・D	M D	1	3		1	1					2	1	1	1					11 1	12		
26	国連政策エキスパートの養成	グローバルコラボレーションセン ター	M・D	M D		5		2		2				4			8	2				23 2	25		
27	グローバル健康環境	グローバルコラボレーションセン ター	M・D	M D		5				3	4		2	2			3					19 1	20		
28	医療通訳	グローバルコラボレーションセン ター	M・D	M D	1	8				8					1	5						23 5	28		
29	サステイナビリティ学	サステイナビリティ・サイエンス 研究機構	M・D	M D		1	1							16	2			1				20 1	21		
30	ナノサイエンス・ナノテクノロジー高度学 際教育研究訓練プログラム(博士前期課 程高度学際教育)	ナノサイエンスデザイン教育研 究センター	M	M D					15					23	24				2			64 0	64		
31	ナノサイエンス・ナノテクノロジー高度学 際教育研究訓練プログラム(博士後期課 程社会人特別選抜)	ナノサイエンスデザイン教育研 究センター	D	M D						1				1								0 2	2		
32	ナノサイエンス・ナノテクノロジー高度学 際教育研究訓練プログラム(博士後期課 程教育研究訓練プログラム)	ナノサイエンスデザイン教育研 究センター	D	M D						1				3	3							7 0	7		
33	知的財産法を修得した人材育成	知的財産センター	M・D	M D											1							1 0	1		
合 計					B D 計	13 4 14	58 1 62	7 3 8	10 2 13	28 3 30	18 24 42	36 3 39	0 0 0	8 1 10	146 7 153	43 3 46	25 5 30	23 3 26	35 5 35	5 3 8	0 0 0	0 1 1	455 61 517		
					文 人 法 経 理 医 歯 薬 歯 薬 工 基 言 国 情 生 高 連 学																				

【総 計】

B・・・医学部、歯学部、薬学部(6年制課程)の5・6年次

M・・・博士前期課程、修士課程、生命機能研究科博士課程1・2年次、法科大学院の課程

D・・・博士後期課程、博士課程、生命機能研究科博士課程3年次以上

	文	人	法	経	理	医	歯	薬	歯	薬	工	基	言	国	情	生	高	連
B						0		0	1									1
M	13	62	7	45	51	18	36	0	8	169	91	25	23	47	10	0	0	605
D	1	7	1	4	3	24	3	0	1	7	3	5	3	0	4	0	1	67
計	14	69	8	49	54	42	39	0	10	176	94	30	26	47	14	0	1	673

「理数学生育成支援事業」の採択

理数分野に関して高い学習意欲を持つ学生を更に伸ばす取組を各大学に普及するため、平成23年度から文部科学省において開始された「理数学生育成支援事業」に応募した結果、本学では以下のプログラムが採択されました。

同事業には、全国で6大学が採択されており、年間1,600万円を上限として、原則4年間の支援を受けることができます。本プログラムの採択により、

本学においては、リーダーシップ人材の育成などの教育効果が期待されます。

申請部局：基礎工学部

実施計画名：基礎工学オーナーフラタニティープログラム—理数分野に関して高い学習意欲を持つ学生の連帯組織化

「理数学生応援プロジェクト」の事後評価結果

理数に関して強い学習意欲を持つ学生の意欲・能力をさらに伸ばし、将来有為な科学技術関係人材を育成するために、文部科学省が平成19年度から推進してきた「理数学生応援プロジェクト」の委託期間を終了した大学について、事業の成果等を確認するとともに、事業終了後の取組について適切な助言や改善点の指摘を行うことにより、事業成果の普及や事業の継続・発展を図ることを目的として事後評価が行われ、本学の取り組みは全プロジェクトの取組の中でも特に目立った成果をあげていると高く評価

されました。

実施部局：理学部

実施計画名：理数オーナープログラム—飛躍知の苗床育成を目指して—

評価結果：A(優れた成果をあげているとともに、委託期間終了後の事業の継続性・発展性も高く、今後も非常に期待ができる。) ※評価区分はA～Dの4段階

研究・産学連携室

特別講演会「3.11以後の科学技術政策と大学」を開催

8月18日(木)、大阪大学銀杏会館において、独立行政法人科学技術振興機構(JST)社会技術研究開発センター長・(兼)研究開発戦略センター副センター長の有本建男氏をお招きして、「3.11以後の科学技術政策と大学」と題した特別講演会を開催しました。研究・産学連携室長である西尾章治郎理事・副学長の開会の後、有本氏から、3月11日の東日本大震災により、日本の科学技術政策や大学の果たすべき役割等が問われていることを踏まえ、科学者、工学者は専門家であると同時に、社会に対して責任を担う一市民であり、この大災害を契機に日本の科学者共同体の文化として思慮の枠組みを醸成することの必要性などについて、教職員や学生に向けて熱く語っていただきました。

次世代の研究者、大学人として今後の日本への、それぞれの価値観、責任、役割をもって連携していく必要性を改めて考える機会となりました。

当日は150名を超す参加者があり、鷲田総長も含む活発な質疑応答も行われました。



講演会風景



質疑応答風景(有本センター長と鷲田総長)

本講演会は、研究・産学連携室、大型教育研究プロジェクト支援室主催によるものです。

平成24年度科学研究費助成事業説明会を2地区で開催

9月21日(水)、26日(月)に豊中、吹田の2地区において説明会を開催し、240名の教職員が参加しました。

今年度も、科研費の審査委員や日本学術振興会学術システム研究センターの研究員を経験した本学教員が、科研費制度の概要に加え、研究テーマの選び方や研究計画調書の書き方のポイント等を採択課題の研究計画調書のサンプルも交え、講演を行いました。

なお、同説明会では、「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン」に基づく競争的資金等の不正使用防止についての説明を併せて行うことで、本学教職員の不正防止への取り組みに係る理解増進と問題意識の向上を図っています。

○豊中地区（9月21日）講演内容

1. 科学研究費補助金の応募にあたって 浜渦辰二教授(文学研究科)
2. 科研費応募について 花垣和則准教授(理学研究科)
3. 科研費の不正使用の防止について 不正使用防止計画推進室
4. 科学研究費助成事業の応募の留意点について 研究推進部



○吹田地区（9月26日）講演内容

1. 科学研究費補助金申請書作成のポイント 沼尾正行教授(産業科学研究所)
2. 科研費応募へのアドバイス 平岡 泰教授(生命機能研究科)
3. 科研費の不正使用の防止について 不正使用防止計画推進室
4. 科学研究費助成事業の応募の留意点について 研究推進部



評価室

平成22年度部局達成状況評価の実施

部局達成状況評価は、各部局が自己点検・評価をもとに作成した「部局年度計画達成状況評価シート」に基づいて、評価室が各部局の年度計画に対する達成状況の評価を行うものであり、各部局の中期目標・中期計画を達成するための支援、及び各部局の教育研究活動等の展開をより一層図っていただくことを目的としています。

今年度は、第2期中期目標期間初年度の平成22年度の達成状況評価を実施することとしており、これについては、各部局からの意見を踏まえて、11月中旬には、確定版として送付する予定です。

また、第2期中期目標期間からは、社会への説明責任を果たす観点から、達成状況評価書についても

ホームページを通じて、学外に公表することとしております。

各部局におかれましては、本評価書の内容を踏まえて、中期目標・中期計画の達成度の確認を行っていただくとともに、次年度計画の策定等に活用していただくよう、お願いします。

なお、今年度は、新たに部局と評価室とのコミュニケーションのさらなる充実を図ることにより、部局の教育研究活動の展開に役立てていただくことを目的として、全部局を対象として、「評価室と部局との意見交換」を実施させていただきましたが、ご協力ありがとうございました。

基礎データ収集システムの改修

本学における教育、研究、社会貢献及び業務運営に係るデータにつきましては、基礎データ収集システムにより、一元的に収集及び管理しておりますが、昨今の大学における「教育の質の保証」の促進の流れを踏まえて、このたび、大学や各部局における着実な自己点検・評価の実施、及び教育研究活動や管理運営等のさらなる改善・充実に結びつけるため、同システムの改修に着手することといたしました。

同システムの改修に向けては、現在、作業を進めているところであり、平成24年5月～6月頃から、順次本格稼働する予定です。

なお、主な改修内容は、次のとおりです。

- ①教員基礎データシステム【改修】
 - ・・・利用者の利便性の向上、業績データの活用方法の充実等
- ②全学基礎データシステム【改修】
 - ・・・分析機能（経年変化、相関比較）の追加等
- ③中期目標・中期計画・年度計画の進捗状況管理【新規開発】
 - ・・・目標・計画の策定から実績の作成までの膨大な情報を、データベース上に一元的に管理等



URL : <http://portal.dma.jim.osaka-u.ac.jp/Plone>

各改修計画の作業に伴うお知らせについては、随時、上記のデータ管理分析室 HP 上にも掲載していきます。

財務室

平成23年度財務面からの検証について

財務室では、本学の教育研究等活動の更なる向上にむけて、効果・効率的な予算配分となっているかなどの検証に取り組んでおり、9月27日(火)、28日(水)に、『複数年度に亘って大学基盤推進経費で措置し

ている事業』について、事業実施部局のヒアリングを行い、事業目的の達成状況等について検証を行いました。



平成23年度予算補正（第1次）について

平成23年度予算補正（第1次）が承認されました。

その内容は、最先端・次世代研究開発支援プログラムの受入れ等による産学連携等研究収入の増などに伴い、予算の補正を行うものです。

平成23年度予算補正（第1次）

大阪大学
(単位：千円)

区 分	当初予算額	補正額	改予算額	備 考
収 入				
運営費交付金	50,455,119	0	50,455,119	
一般運営費交付金	39,423,022	0	39,423,022	
特別運営費交付金	3,882,496	0	3,882,496	
特殊要因運営費交付金	4,259,263	0	4,259,263	
附属病院運営費交付金	1,985,673	0	1,985,673	
業務達成基準対象事業等運営費交付金	904,665	0	904,665	
授業料、入学料及び検定料収入	13,174,934	0	13,174,934	
附属病院収入	31,249,009	0	31,249,009	
雑収入	1,188,384	100,000	1,288,384	特許係争に係る和解金 ①戦略的経費等へ充当
計	96,067,446	100,000	96,167,446	
寄附金収入	4,450,144	0	4,450,144	
産学連携等研究収入	28,685,390	559,850	29,245,240	最先端・次世代研究開発支援プログラム受入に係る間接経費の増等 ②戦略的経費等へ充当(280,074千円) ③産学連携等研究費へ充当(279,776千円)
著作権及特許権等収入	114,308	0	114,308	
計	33,249,842	559,850	33,809,692	
施設整備費補助金	3,289,512	0	3,289,512	
国立大学財務・経営センター施設費交付金	148,000	0	148,000	
長期借入金	861,616	0	861,616	
設備整備費補助金	222,959	0	222,959	
計	4,522,087	0	4,522,087	
合 計	133,839,375	659,850	134,499,225	
支 出				
人件費	46,602,579	△ 174,625	46,427,954	人件費所要額見直し分 ④戦略的経費等へ充当
役員人件費	186,372	△ 671	185,701	
教員人件費	27,432,366	△ 30,742	27,401,624	
職員人件費	15,082,802	△ 143,212	14,939,590	
退職手当	3,901,039	0	3,901,039	
物件費	51,918,843	554,699	52,473,542	
管理運営経費	8,122,313	△ 79,655	8,042,658	H22 決算調整 ⑤戦略的経費等へ充当
教育研究基盤経費	6,872,712	0	6,872,712	
診療経費	20,209,110	0	20,209,110	
事項指定経費	531,572	0	531,572	
個別収入対応経費	829,085	0	829,085	
概算要求事項経費	4,661,229	0	4,661,229	
債務償還経費	5,588,126	0	5,588,126	
戦略的経費等	4,311,031	634,354	4,945,385	①②④⑤より充当
業務達成基準対象事業費等	793,665	0	793,665	
計	98,521,422	380,074	98,901,496	
寄附金支出	4,420,034	0	4,420,034	
産学連携等研究費	26,261,524	279,776	26,541,300	③より充当
著作権及特許権等経費	114,308	0	114,308	
計	30,795,866	279,776	31,075,642	
施設整備関係経費	4,057,432	0	4,057,432	
病院特別医療機械整備費	241,696	0	241,696	
大型特別機械整備費	0	0	0	
設備整備関係経費	222,959	0	222,959	
計	4,522,087	0	4,522,087	
合 計	133,839,375	659,850	134,499,225	

* 今後の資金運用による運用益、学内貸付制度に係る利息及び全学間接経費増加額については、総長の決定により戦略的経費等へ組み入れることとする。

平成 22 事業年度財務諸表の承認について

平成 23 年 10 月 14 日付けで、平成 22 事業年度財務諸表が文部科学大臣より承認されました。(利益の処分に関する書類(案)を除く。)

この承認を受けて 10 月 24 日付けの官報に掲載し、本学のホームページでも公表しています。

人事労務室

特例職員(技術)採用試験の実施等について

特例職員制度については、その概要及び試験実施状況等を繰り返しお知らせしているところです。このたび、制度創設後初めて、技術補佐員を対象とした特例職員(技術)採用試験を実施しました。

募集職種は、「電気」及び「情報」担当の技術職員であり、応募のあった「電気」分野について、去る 10 月 15 日(土)に教養試験及び小論文試験を、10 月 19 日(水)に専門試験及び面接試験を、それぞれ実施しました。

今後、選考のうえ、10 月 31 日(月)に合格発表を行い、合格者については平成 24 年 4 月 1 日付けの採用を予定しています。

(なお、事務職員を募集職種とする特例職員試験についても、9 月 17 日(土)に教養試験及び小論文試験を、9 月 22 日(木)に面接(個別及び集団)試験を、それぞれ実施し、10 月 21 日(金)に合格発表を行い、合格者については平成 24 年 4 月 1 日付けの採用を予定しています。)

「原則として勤務を命じない時間」の試行結果の検証等について

教職員の勤務時間については、所定労働時間の途中に「原則として勤務を命じない時間」(15 分間)を置くという形で昨年 4 月から順次その試行を開始し、
・実施報告等からは、その目的である「コスト増加(人件費の増加)を招かない形での導入」に向けて概ね順調に進展していることが認められること。
・ただ、試行開始時期がそれぞれの部局等で異なることから、年間を通しての試行が完了していないため、その結果が出揃うまでは「原則として勤務を命じない時間」を置く試行実施を平成 23 年度も継続すること。
等を既にお知らせしている(2011 年 2 月号参照)

ところです。

このたび、8 月末をもって、すべての部局において試行開始から 1 年を経過したため、その結果の検証を行いました。

その結果、様々な突発的な業務等の増加があったにもかかわらず、大半の部局において、試行前に掲げた「試行実施プラン」どおり業務効率化等が実践されていると認められることから、試行時と同じく所定労働時間の途中に「原則として勤務を命じない時間」を 15 分間置くことを制度化することを念頭に、その手続きを進めることとなりました。

以上、ご理解の程よろしく申し上げます。

広報・社学連携室

大阪大学のブランド力を向上させるために

全学の広報体制の強化と見直しを進めます。

大学のブランド力の向上にあたって広報のもつ重要性はUI（University Identity）醸成の観点からもきわめて高いと認識しています。

一方、本学では、各種広報活動（入試・国際・産学連携・基金室・同窓会・学生対象・時限付きプロジェクト等）が個々に展開されており、必ずしも効果的となっていない側面や部署による取り組みの温度差がありました。

そこで、全学的に広報物の可視化を進め、費用の低減化、効率化を図り、それぞれの部署とともに広報マインドの醸成を目指すことに加え、広報基盤整備本部会議のもとに本部事務機構の関与する各種広報活動の有機的連携・効率化を図るためのプランを早期に作成するWGを立ち上げる予定としています。

具体的には、ステークホルダーの特性に応じた情報発信を強く意識し、社会における大学機能の理解者の拡大を目指すべく、本学の状況に即した具体的な取り組みを提案するものにしたいと考えています。このことにより、優秀な受験生・留学生を増やすと

ともに、同窓生や地域社会に阪大の「教育」「研究」の成果をアピールして、外部資金・寄付金の獲得増加も目指します。

全学の社学連携体制を見直し、取組事項とその強化を進めます。

現在、阪大には地域社会に対する窓口をミッションとする多くの部署が活動しております。本部の広報・社学連携オフィス、大阪大学会館の21世紀懐徳堂、適塾記念センター、待兼山修学館の総合学術博物館、そして中之島センターにおいては各種公開講座が開催されています。さらに、コミュニケーションデザイン・センターもラボカフェなどの学外活動を推進しています。しかしながら、学内外の方からはその相違点がわかりにくいところのご指摘を受けることがあります。このような多彩な阪大の社学連携活動をいっそう有機的・効率的に行うための方策を考えるために、広報・社学連携室のもとにWGを立ち上げる予定です。

大阪大学ポータルサイトのリニューアルについて

全学IT認証基盤システム更新に伴い「大阪大学ポータル」をリニューアルし、新たな大阪大学ポータルサイト「マイハンダイ」(<https://my.osaka-u.ac.jp/>)を10月1日より運用開始いたしました。

従来の大阪大学ポータルに掲載していたリンクやページの機能を受け継ぎながら、デザインを一新するとともに機能の拡充を図り、教職員・学生がより利用しやすいポータルサイトにしていく予定です。



国際交流室

新国際戦略（グローバル化戦略）の策定

平成 17 年 12 月に策定された「国際戦略」から 6 年近くの時間が経過しようとしています。

その状況下で、本学の中・長期にわたる将来を見据えた新たな国際戦略の策定を行うための検討を開

始しました。国際交流室と国際企画推進本部が連携を取りながら、目前の現実的な課題解決に対応しつつ、22 世紀においても引き続いて輝き続けるグローバルな本学の姿を構想します。

大学の国際化に向けてのネットワーク形成

国際化拠点整備事業（大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業）の大きな使命として、同事業に採択された大学はもとより、近隣の大学とも連携を図り、ネットワークを形成することにより、国際化に向けた資源の共有ならびに情報交換を通じて相乗効果を図る事が求められています。

去る 7 月 27 日に神戸大学、関西大学、関西学院大

学との間で国際化に向けたネットワーク形成に関する協定書を締結したことを契機に、今後、ますます 4 大学協働による事業実施の実績を重ね、より実が伴う連携を構築していきたいと考えております。

一方、インターナショナルカレッジの拡充など「教育の国際化」の充実につながる事業については、教育・情報室との密接な連携のもとに進めます。

学生の受入・派遣

本年 5 月 1 日現在の留学生数は 1,780 人となり、留学生の受入れ数は順調に推移しておりますが、今後とも、OUSSEP、Maple、FrontierLab@OsakaU などの短期留学プログラムや、国際化拠点整備事業で設置した学部・大学院英語コースの充実化を図ることにより、更なる留学生の受入増を図っていききたいと考えています。

また、本学学生の海外への派遣についても、派遣者数の拡大に向け、積極的に取り組んで行きたいと思っています。さらに、平成 23 年度より始まった「ショートスティ・ショートビジット」事業では、全国でも上位の奨学金を獲得することができましたが、本事業による交流実績を確かなものとしたいと考えています。

サポートオフィスの継続的運営

受入前から渡日直後の留学生及び外国人研究者を対象に「ビザ取得」、「学内宿泊施設」等のサービスについて一元的な対応を行うワンストップ・サービスを平成 19 年 10 月から試行開始し、平成 21 年 10 月以降は国際化拠点整備事業経費によりそのサービスをさらに機能強化しております。教職員の方々を

対象とした説明会には、毎回多数の方の出席があり、サポートオフィスの継続運営を支えていきたいと思っています。これら留学生・外国人研究者のサービス支援体制は大学の国際化にとって不可欠のものと考えております。

海外の大学等との連携

海外の大学等との学術交流協定は、本学の教育・研究活動の世界展開を反映し、ここ数年の間にその協定大学・部局数は飛躍的に伸びて来ました。今後は、世界の留学生獲得競争の中で、これまでの実績を踏まえつつ、戦略的にこの大学あるいはこの地域の大学と連携していくという姿勢がより一層求められる

と感じております。国際交流室会議はもとより、関係 WG 等とともにその方向性を検討していきたいと考えております。

二国間交流、多国間交流

本学は、環太平洋大学協会（APRU）ならびに東アジア研究型大学協会（AEARU）に加盟しております。これらコンソーシアムでは活発な交流事業が計画されており、これまで主要な会議には参加をしてきました。さらに、コンソーシアム内でのプレゼンスを高めるべく、本学が担当実施となり得る行事を積極的に検討していく必要があると感じております。

また、近年、日中学長会議をはじめ日独学長会議、

日英学長会議の他に日越学長会議や日本—北アフリカ学長会議など新たな枠組みでの会議が増えてきております。これも各国がグローバル化の中、積極的に連携を模索し人的交流をはじめ、相互互惠関係を築こうとしているものですが、それにあたっての本学の軸足を固める必要があります。とりわけ、日独関係では、日独六大学学長会議が発足しており、今後、活発な交流への対応を取っていく予定です。

海外教育研究センターの活動

世界4箇所に設置している海外教育研究センターについては、これまで現地において活発な活動を展開し、日本と現地との橋渡しの役割を十二分に担ってきたところです。去る6月18日(土)には大阪大学欧州同窓会を発足し、センターが所在する各地域に

おいては同窓会支援を行う体制も出来ております。センターの活動をさらに活性化していくにあたっては、そのあり方を含めて、新しい視点からも検討を深めて行きたいと思っております。

国際化の加速的推進

「大阪大学活動方針2011」で策定されている大学の国際化の加速的推進については、喫緊の課題であり、多文化共生の理念に基づき外国の方々が快適に過ごすことができ、併せて日本人学生、教職員が自然に

受入れる環境作りに努め、本学の有する知的・文化的資源を地域社会・国際社会に還元しつつ、その実現に向けて積極的に進んで行きたいと思っておりますので、皆様のご支援、ご理解をよろしくお願い申し上げます。



創立 80 周年記念事業



原点へ 未来へ

大阪大学は 2011 年に創立 80 周年を迎えます



コミュニケーションデザイン・センター

ラウンドテーブル『知のジムナスティックス～学問の臨床、人間力の鍛錬とは何か～』開催

コミュニケーションデザイン・センターは、8月5日(金)に大阪大学創立80周年記念関連事業として、ラウンドテーブル『知のジムナスティックス～学問の臨床、人間力の鍛錬とは何か～』を、京阪電車中之島線「なにわ橋駅」地下1階「アートエリアB1」で、市民・学生など約200名の参加者を得て開催しました。

日々の暮らしの根幹を揺るがす未曾有の事態と直面した私たちにとって、これからを生きる人間力が、まさに問われている昨今。このラウンドテーブルは、本学が実施する「高度教養プログラム：知のジムナスティックス」に基づいた記念事業として、学生有志と共に企画実施しました。ここでは、生きる為の智慧と術に長けた多分野のゲストと学生有志を交えて、私たちは、現在を如何に乗り越え、未来を生きていくのかについて、総勢12名の登壇者(下記参照)が一つのテーブルを囲んで、【知性の体力や耐力／複眼をもつこととしての教養】に焦点をあて、人生における学びの重要性について検証するものでした。

冒頭は、登壇者に対して事前に4つの質問事項【あなたにとって「知」とは何か。／なぜ今の活動を？(なぜその専門領域に至ったのか)／これからの社会をどういうものとして捉えているのか? 「世界」の捉え方。／「これがないと生きていけない」と思うものは。】を投げかけており、それを踏まえた自己紹介から議論が展開されました。

限られた時間内の発言機会ではありましたが、東日本大震災に関する事項／メディアの変遷と真偽とリテラシー／大学論など、個々人の専門性や実践知に根ざした見解と示唆に富んだ言葉が交わされました。

【登壇者】

石川直樹(写真家)×北村正晴(原子力工学・人間工学研究者／東北大学名誉教授)×鈴木寛(文部科学副大臣)×森達也(作家・映画監督)×山田ブーニー(文章表現・コミュニケーションインストラクター)×鷲田清一(哲学者／大阪大学総長)×学生



ラウンドテーブルの会場



鷲田総長(中央)、鈴木文部科学副大臣(右から2番目)

有志：齊藤陽介(東北大学大学院生)、鈴木竜太(大阪大学学部生)、辻明典(大阪大学大学院生)、橋本みなみ(神戸大学大学院生)、宮下英美子(京都大学大学院生)：進行：小林傳司(コミュニケーションデザイン・センター教授、科学哲学・科学技術社会論)

【全体司会】

三成賢次(コミュニケーションデザイン・センター長、西洋法史・ドイツ法)

(コミュニケーションデザイン・センター)

オープンイノベーションフォーラム OSAKA を開催

8月23日(火)に大阪国際会議場（グランキューブ大阪）において、「オープンイノベーションフォーラム OSAKA」を開催しました。

このフォーラムは、大阪市と大阪大学とが共催し、【うめきた、そして「(仮称)大阪オープン・イノベーション・ヴィレッジ」から生まれる未来 ～平成25年春のまちびらきにむけて～】と題して、「大阪ならではのオープンイノベーションを根付かせるためには、産学官がどのような役割を果たして連携していくべきか？」について議論を深めることにより、今後のそれぞれの展開に活かしていくことを目的として実施しました。

フォーラムでは、平松邦夫 大阪市長による開会の挨拶に続いて、株式会社サンプリッジ アレン・マイナー代表取締役会長 兼 CEO より基調講演がありました。

その後、西尾章治郎理事・副学長がモデレータを務め、平松邦夫 大阪市長らをパネリストに迎え、【「うめきた」で起こすオープンイノベーション OSAKA モデル】をテーマとしたパネルディスカッションが行われました。

フォーラム後半は、【大阪大学と「(仮称)大阪オープン・イノベーション・ヴィレッジ」の連携】をテーマに、澤芳樹医学系研究科教授、山中伸介工学研究科教授、榎並和雅 独立行政法人情報通信研究機構理事の講演に引き続き、西尾章治郎理事・副学長によるフォーラムの総括が行われ閉会となりました。



平松邦夫大阪市長による開会の挨拶



西尾章治郎理事・副学長によるフォーラム総括

当日は平日にもかかわらず、また残暑厳しい中、会場には230名を超える参加者があり、各講演者の話に熱心に耳を傾けていました。



パネルディスカッション風景

(研究推進部産学連携課)

第2回日蘭学生会議開催

昨年4月にグローニンゲン大学の文系学生12名が本学を訪問し「教育」をテーマに討論会が行われたことがきっかけとなり、日蘭学生会議が組織されました。今回、大阪大学創立80周年記念関連事業として第2回目の日蘭学生会議が、「働くこと」をテーマにオランダ・グローニンゲン大学にて9月14日(水)、15日(木)の2日間に渡り開催され、本学側より15名(人科5名、法3名、外2名、工、基、歯、経、文各1名)、グローニンゲン大学側より15名の参加がありました。本学より参加の学生は、9月11日(日)より9月22日(木)の日程で来蘭し、アムステルダムおよびデン・ハーグの企業訪問を挟み、グローニンゲンに7日間滞在しました。

開講式では、肥塚隆駐オランダ特命全権大使の基調講演が行われ、講演終了後には質疑応答も行われました。



第1日目は、“Working and the working poor/unemployed”, “Student’s career choices”をテーマに、日蘭双方の学生が交互にプレゼンテーションを行い、その後各班に分かれてディスカッションを行い、「まとめ」が発表されました。また翌2日目には、“Globalization within the business context”, “Social life and job satisfaction”をテーマにプレゼンテーションとディスカッションが行われ、最後にはこの2日間のまとめとして“Work to live/live to Work”をテーマに、オープンディスカッションが行われました。

グローニンゲン滞在中は、日蘭学生会議の他にオランダ人講師による講義の他、企業訪問、サイクリングツアー、近郊へのエクスカーショ、バーベキューなど連日イベントも満載でした。来年は、本学にて別テーマにて第3回目が開催される予定です。



(グローニンゲン教育研究センター)

大阪大学の研究をひらく・つたえる・わかちあうために

大阪大学アウトリーチWEBを開設しました

<http://outreach.21c-kaitokudo.osaka-u.ac.jp/>

広報・社学連携オフィス 大阪大学 21世紀懐徳堂

■ 大阪大学におけるアウトリーチとは？

「アウトリーチ」には「手をさしのべる」の意があるので一方性の印象を持たれることもあるかもしれませんが、大阪大学ではアウトリーチという言葉は「国民の研究活動・科学技術への興味や関心を高め、かつ国民との双方向的な対話を通じて国民のニーズを研究者が共有するため、研究者自身が国民一般に対して行う双方向的なコミュニケーション活動」*註という定義にもとづいて用いています。

このことから、大阪大学のアウトリーチ活動とは、大学、研究者が研究内容や成果を社会に対してわかりやすく説明したり、研究者と国民が互いに対話しながら信頼関係を醸成していくことを目指す活動のことなのです。

*註「第3期科学技術基本計画」の重要施策（H17年4月 中間とりまとめ）による

■ 本学の取り組み体制は？

21世紀懐徳堂は本学のアウトリーチ活動の窓口です。

本学は、研究成果を社会・市民の皆さんに広く還元し、研究・科学の魅力・価値を分かち合うことは重要と考えています。

21世紀懐徳堂は、昨年、内閣府「国民との科学・技術対話」の本学の窓口になって以来、本学のアウトリーチ活動の窓口として、部局の協力を得ながら、情報の集約・発信を進めてきました。



■ 大阪大学アウトリーチWEBとは？

そして、今年8月下旬には本学の研究者の研究成果を広く社会に公開し、共有するためのポータルサイト「大阪大学アウトリーチWEB」を開設しました。①市民・マスコミ ②小中高校・自治体 ③学内研究者 を対象とした、他大学にはないアウトリーチ活動（研究公開活動）の専用WEBサイトです。

本学で取り組まれている多彩な研究について、その内容や意義、プロセスや成果を社会に公開するアウトリーチ活動（公開講座、サイエンスカフェ、WEB、出版など）の情報を集約し、発信する他、研究者や部局等がアウトリーチ活動をする際に参考となるノウハウなどの情報も提供していきます。



アウトリーチ活動を企画・実施される時は「大阪大学アウトリーチWEB」にも情報をご提供ください。

- イベント情報は「マイハンダイ」にログインし「セミナー・シンポジウム情報登録」フォームに必要情報を入力するだけでOK。
(大阪大学公式 HP セミナー・シンポジウム情報および、大阪大学 21 世紀懐徳堂 HP イベント情報にも掲載されます。)
- 研究プロジェクトの WEB 開設や出版などメディアを通じて研究について発信された場合は、21 世紀懐徳堂にメールでご一報ください。
office@21c-kaitokudo.osaka-u.ac.jp

アウトリーチ活動（研究成果公開活動）をすすめたいけれど、

何をしたらいいかわからない。

会場探しに困っている。

もっと広報に力を入れたい。

活動の受け皿があるなら利用したい。

学生に手伝ってもらいたいが予算がない。

そんな時は、

本学のアウトリーチ活動の窓口

21 世紀懷徳堂までご相談ください。

21 世紀懷徳堂は、本学のアウトリーチ活動の実施サポートと情報集約をミッションの一つとしています。具体的な支援内容は…

■ 今後の展望とお願い

大阪大学では、研究者やそれぞれの部局等が既に多様なアウトリーチ活動に取り組んでいます。個々のアウトリーチ活動が、個別に発信されているため、「市民や社会に開かれた大学」としての全体状況がつかみにくい現状にあります。

これを受けて、21 世紀懷徳堂は、「大阪大学アウトリーチ WEB」を核として学内情報を集約し、対外的に発信すると同時に、効率的なアウトリーチ活動の実施に向け、学内外に対して活動支援を行う“ポータル機能”を充実させていきます。

そのためには、私たちスタッフがもっと各部局等の状況を理解し、個々の研究者や研究スタッフが日頃感じているニーズを知ることが第一歩だと感じています。

電話やメールでのお問い合わせに答えるだけでなく、我々スタッフが部局や研究室に直接出向いて、皆さんの声をお聞きする機会も作っていきたく思っております。

実際のニーズに応じて体制を整え、より現実的で効果的な支援方策を検討し提案していくことを念頭に置いておりますので、何卒、ご協力をお願いします。

① 広報や会場提供などアウトリーチ活動をサポートします

アウトリーチ活動を計画、準備している方にご利用いただける「支援メニューアラカルト」があります。「大阪大学アウトリーチ WEB」を使った情報発信や、公共施設等へのチラシ発送といった広報サポートはもちろん、無料の会場提供・紹介、予算に限りがありますが、学生アルバイト代補助も可能です。お気軽に、お早めにご相談ください。



WEB で情報発信

本学のアウトリーチ活動情報を集約し、WEB で発信します。



チラシ発送・配架

21 世紀懷徳堂がイベントチラシを発送する際、一緒に本学のアウトリーチ活動のイベントチラシ等を同封できます。発送時期や送付先リストは、お問い合わせください。



会場提供・紹介

豊中キャンパス大阪大学会館 1F の 21 世紀懷徳堂スタジオやギャラリーを無料で利用可能です。その他の貸し出し可能なスペースのご紹介もできます。



学生アルバイト代補助

アウトリーチ活動に必要な学生アルバイト代を補助します（1 事業につき上限 5 万円まで）。年間補助金額には限りがあります、お早めにお問い合わせください。



ビデオカメラ貸出

アウトリーチ活動記録用に、ビデオカメラを貸し出すことができます。貸出状況はお問い合わせください。



その他いろいろ

企画全体についてのアドバイスや連携先の紹介などもできます。まずはお問い合わせください。

② 公開講座など、アウトリーチ活動の受け皿を紹介します

公開講座やサイエンスカフェなどの既存の講座を利用したアウトリーチ活動を希望される方はお早めにご相談ください。テーマとタイミングが合えば、21 世紀懷徳堂が主催する公開講座の講師として、年度内に出講いただくことも可能です。他部局主催の企画や学校・自治体との連携講座など、アウトリーチ活動の“場”をお探しして、ご紹介いたします。

③ 活動例やノウハウを紹介します

アウトリーチ活動には様々な形があります。取り入れやすい形態を一緒に考えますので、何をすればよいのかわからない方もお気軽にご相談ください。やってみたいもののイメージをお持ちの場合は、さらに具体的な活動例やノウハウをご紹介することもできます。

【アウトリーチ支援窓口】

大阪大学 21 世紀懷徳堂

（豊中キャンパス／大阪大学会館 1 階）

TEL.06-6850-5339 担当／林、中西、川人 E-mail office@21c-kaitokudo.osaka-u.ac.jp

大阪大学アウトリーチWEB <http://outreach.21c-kaitokudo.osaka-u.ac.jp/>

前執行部退任に伴う催し

8月25日(木)をもって退任された鷺田前総長はじめ、理事・副学長の退任に伴う催しが開催されました。どの催しも前執行部の先生方への感謝の気持ちがこもった催しでした。

“ありがとう”ランチ

8月11日(木)、テクノアライアンス棟1階アライアンスホールにて、総長の鷺田先生をはじめ、執行部の先生方の『普段お世話になりながらも、あまり話す機会のなかった職員の方々に感謝の気持ちを表したい』という意向から、本部事務機構内の係長以下の職員のみなさんを招いての昼食会を兼ねた意見交換会が開かれました。

“ありがとう”ランチと題したこの会は、約200名の参加者を、先生方がハイタッチや握手で出迎えるところからスタートし、職員側にとっても普段あまり話す機会のない総長や理事の先生と話せるとあって、大いに盛り上がり、参加者のなかには感極まって涙する方もおられるなど、終始温かい雰囲気会の会となりました。

途中、サプライズとして大阪大学の学生アカペラサークル inspiritual voices からジャズを得意とする Pretz の皆さんに登場していただき、素晴らしい演奏で会に花を添えていただきました。

参加していただいた方には、きっと鷺田先生はじめ前執行部の先生方からの“ありがとう”という思いが伝わったことと思います。



(総務企画部総長秘書室)

鷺田総長に送別のエール

8月23日(火)、鷺田総長に対し、本学応援団による送別セレモニーが本部事務機構前の広場において行われました。

当日は、役員をはじめ多数の教職員が見守る中、これまでお世話になったことへの感謝と今後のさらなる活躍を祈

念し、エールと記念の花束が贈られました。

終了後も、その場で応援団のメンバーと名残惜しそうに懇談する姿に、最後まで学生のことを第一に考えていた鷺田前総長の思いが伺われるセレモニーとなりました。



(学生部学生・キャリア支援課)

総長、理事・副学長と本部事務機構職員とのお別れ会を開催

8月23日(火)17時30分から、総長、理事・副学長と本部事務機構職員とのお別れ会をカフェテリア「匠」において行いました。

この会は、8月25日に退任される鷲田総長、西田、小泉、西尾、土井、門田、高杉、辻各理事・副学長に対し、本部事務機構職員から感謝の意をお伝えする会として企画したもので、約120名が参加しました。

総務企画部総務課の中原さんと同部総長秘書室PMTの花岡さん両名の司会・進行により、役員として引き続き務められる尾山理事・副学長の乾杯で会が始まりました。

参加者は総長、理事・副学長と、これまでの思い出話（苦

労話？）に大いに盛り上がり、会の途中では、鷲田総長からご提供いただいた著書をプレゼントする抽選会が行われ、当選者は満面の笑みを浮かべて喜んでいました。中には総長と抱き合って喜ぶ姿も見受けられました。

会の終盤では、総長、理事・副学長からそれぞれご挨拶があり、参加者に対して感謝のことが述べられ、続いて、本部事務機構職員一同から花束と寄せ書きの贈呈が行われました。

贈呈された花束は、総長、理事・副学長の人柄や好みをよくご存知の秘書係の皆さんからご提案いただき、一人ひとりのイメージを花束に込めて作成したものでした。ま



た、寄せ書きは本部事務機構職員から心のこもったメッセージが数多く寄せられたもので、受け取られた総長、理事・副学長は大変喜ばれたご様子でした。

また、サプライズ・イベントとして、鷺田総長の就任から丸4年間、総長を近くで支えられた秘書系の橘係長、山中さんに対して鷺田総長から花束贈呈が行われ、お二人は大変感激されていました。

さらに、この日のために作成されたスペシャル映像が上

映され、就任されてから今日までを「航海」に例え、感謝の気持ちとエールを込めた贈ることばが、スクリーンに映しだされると、総長、理事・副学長はしみじみとご覧になられていました。

最後に、参加者から盛大な拍手で総長、理事・副学長をお見送りし、名残を惜しみつつ閉会となりました。

(総務企画部総務課)

鷺田総長退任直前トークUSTREAM配信

8月25日(木)鷺田総長任期最後の日、鷺田総長のホンネに迫るトーク番組を、主が去ろうとしている総長室から映像配信ウェブサービス「USTREAM」でライブ中継しました。

出演は鷺田総長、司会は菅原真央さん(外国語学部)と長谷川直樹さん(外国語学部)で、この配信はO+PUSディスプレイでもライブ中継しました。

配信当日、視聴者数は300人を超え、また、鷺田総長が



Twitterで受け付けた質問に回答するなどトークは盛り上がりました。

最後に、就職活動中という司会の学生には「最初は誰にでもできる仕事をさせられても、その仕事ぶりを見る周囲の人から『あいつにしかできない』『あいつなら任せられる』と思わせられるようにならなければならない」とアドバイスを贈られました。

(ウェブデザインユニット)

鷺田総長ら役員の退任時のお見送り

役員として最後の勤務を終えられ退任される鷺田総長、理事・副学長に対し、本部事務機構職員によるお見送りが、本部棟玄関ホールにて行われました。

25日(木)当日は、11時30分に門田理事・副学長、17時



15分に鷺田総長、西田、小泉、土井、高杉先生、辻各理事・副学長(西尾理事・副学長は出張中)が退任され、本部棟玄関ホールには大勢の職員が集まり、これまでの感謝の気持ちを込めた大きな拍手をもってお見送りしました。

(総務企画部総務課)

各室での送別の様子

各室においても、退任される室長のご尽力に対して感謝の意が表されました。以下では、そのうちのいくつかをご紹介します。

7月25日(月)、研究・産学連携室会議において、同日が最後の室会議となる西尾室長に室員を代表して、大坊郁夫室員(人間科学研究科教授)から、数々の事業へのご尽力・ご功績に対してお礼の言葉が述べられるとともに花束の贈呈が行われました。引き続き、西尾室長からは、室員に向けて、大阪大学の研究力の更なる強化に取り組むよう激励のご挨拶がありました。



同日、財務室では財務室・財務部合同による門田理事の送別会が開催され、室員と職員が初めて業務以外で交流を深める場ともなり互いに有意義な時間を過ごす機会となりました。最後に門田理事から、これまで医学には関わってきたが、財務に関しては財務諸表すら知らない全くの素人であったにも関わらず、鷺田総長から財務担当理事として指名されたことにより、これまで経験したことがない新しい業務にチャレンジし、非常に充実した日々が送れたことについて、これまで一緒に仕事をしてきた教職員へ感謝の言葉を述べられ終始和やかな雰囲気です別会が行われました。

広報・社学連携室では、8月3日(水)、高杉理事の送別会が開催されました。最初に室員を代表し、青江室員(高等司法研究科)からお礼の言葉が述べられ、高杉理事からは、2年を振り返りながら、今後の広報・社学連携室への期待などが述べられました。また、8月25日の任期最終日には広報・社学連携事務室の職員らと理事室において記念撮影を行い、改めてお礼の言葉を贈ることができました。



国際交流室では、8月8日(月)、カフェテリア匠において、「辻理事・副学長と国際関係教職員とのお別れ会」が開催されました。

当日は、50名を超える教職員が参加し、終始和やかな雰囲気の中、歓談が行われました。

歓談の合間には、関係教職員から、辻理事・副学長との思い出深いエピソードや感謝の言葉が披露され、また、参加した教職員それぞれが、辻理事・副学長へ感謝の気持ちをお伝えし、お別れを惜しみました。

最後に、辻理事・副学長から退任の挨拶と教職員への謝辞が述べられた後、教職員を代表して総長秘書室・中西亜由美秘書から花束が贈呈され、会は盛会のうちに閉会しました。



辻理事・副学長と参加者の記念撮影



総長秘書室 中西秘書から花束贈呈

第5回 パンキョー革命（学生・教職員懇談会）開催

7月14日(木)、マッチング型セミナー室（ステューデント・コモンズ2階）にて「第5回パンキョー革命（学生・教職員懇談会）」を開催しました。このイベントは、共通教育のよりよい在り方を学生と教職員が対話をしながら、共に考えていくために企画されています。参加者は42名（学生25名、教員10名、職員6名、学外者1名）を数えました。山成数明大学教育実践センター教育実践研究部長の挨拶の後、パンキョー革命推進チームの先輩学生から「試験をどう乗り越えるか」「パンキョーをどう受けるか」についてのプレゼンテーションがあり、「生徒」から「学生」へと学習スタイルや自覚を変えていくことの必要性が示されました。続いて、オフィスアワー、ラーニング・アドバイザー、図書館、学習支援サイトなど、主体的学習に活用できる学内資源について紹介があり、グループ毎にクエスチョンタイムを設けて、主に1回生の質問に先輩学生・教職員が答えました。



(大学教育実践センター)

知的財産センター・法学研究科附属法政実務連携センター主催 公開講義「今なすべきことは何か？～阪大生へのメッセージ～」

7月20日(水)、知的財産センター、法学研究科附属法政実務連携センターでは、法学研究科植松利夫招へい教授（前法学研究科教授、現内閣官房社会保障改革担当室企画官）を講師として、公開講義「今なすべきことは何か？～阪大生へのメッセージ～」を開催しました。当日は植松利夫招へい教授の事実上の最終講義となり、社会保障制度改革を題材として、①状況を認識し、対応する力、②情報を見極める力、③選択する力、④行動する力の重要性についてお話し頂きました。その上で、阪大生へのメッセージとして、今後、大学で研究をするにせよ、実社会で働くにせよ、一つ上を目指す力を発揮して欲しいとの激励の言葉を頂きました。

参加者からは、「少子高齢化が進んでいく中で社会保障などについての政策をどのように行っていけばよいのか興味を持った。」「日本の今の状況を把握し、このような中で自分が何ができるかを考えるきっかけとなった。」また、「ひ



と一つ上を目指す力についての話がとても印象的だった。自分も今の環境に満足せず、一つ上を目指して頑張っていくと思う。」等の感想が寄せられました。

(知的財産センター、法学研究科・法学部)

第6回 APRU学生サマープログラムに参加

本学が加盟しているAPRU（Association of Pacific Rim Universities：環太平洋大学協会）は、毎年、加盟大学の学生同士の交流を目的に学部学生サマープログラムを開催しています。今年は7月5日(火)～18日(月)に中華人民共和国の浙江大学にて開催されました。

対象者はテーマである“Developing Entrepreneurial and Innovative Talent in 21st Century”に興味のある学部学生で、本学からは、応募者の中から選ばれた法学部3年の谷あかりさん、外国語学部3年の伴美歌子さんが参加しました。

期間中は、講師や起業家による講義、グループで取り組むコンテストや課外活動、また、参加各国からの学生との



貴重な交流を通じ、多くの収穫と感動があったようです。今後もこのようなプログラムへの本学学生の積極的な参加を期待しています。

〈サマープログラム概要〉

テーマ：“Developing Entrepreneurial and Innovative Talent in 21st Century”

内容：講義と質疑応答（起業家精神、経済開発等）、ビジネスプランコンテスト、中国伝統文化体験（カンフー、書道等）、観光（世界遺産巡り等）

他の参加大学：オークランド大学、北京大学、オレゴン大学、高麗大学校、国立台湾大学、京都大学、メキシコ国立自治大学、南京大学、精華大学、東京大学、慶応大学、早稲田大学、ソウル国立大学校、チュラーロンコーン大学、香港科学技術大学、チリ大学、中国科学技術大学、オーストラリア国立大学、香港大学、カリフォルニア大学デイヴィス校、シドニー大学、シンガポール国立大学、東北大学、マラヤ大学、インドネシア大学、大阪大学

参加人数：46名

（大阪大学国際交流室のサイトに参加者のレポートが掲載されています。）

URL: <http://www.osaka-u.ac.jp/jp/international/iab/index.html> こちらもご覧下さい。

（国際交流オフィス国際交流課）

平成23年度 国際教育交流センター連絡・交換会実施

平成23年度国際教育交流センター連絡・交換会が国際教育交流センター、学内他部局と国際交流オフィスから計63名が参加し、7月22日(金)に大阪大学会館アセンブリーホールにて開催されました。菊野亨国際教育交流センター長の挨拶から始まり、辻毅一郎国際交流担当理事・副学長より「大阪大学の国際化：『大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業』を中心とした取組みについて」と



題して基調講演があり、質疑応答が行われました。その後、議事の検討事項として熊谷悦生基礎工学部講師より「特に留学生に対する全学的なメンタルチェック体制確立の必要性」について問題提起があり、質疑応答と意見交換が行われました。また平田公明国際交流オフィス学生交流推進課長より、国費外国人留学生の資格外活動についての部局アンケート結果の報告があり、意見交換を踏まえてガイドライン改正が検討されることとなりました。引き続き各部局の留学生相談室や国際交流室等における活動状況報告、国際教育交流センターの日本語教育研究・短期プログラム開発研究・交流アドバイジング研究の各チーム、そしてサポート・オフィスの活動状況報告があり、国際教育交流を推進する全学組織である国際センターと各部局の横断的な情報交換と連携強化が図られました。終了後は学生交流棟1階「宙」にて懇談会が開かれ、さらなる意見交換や人的ネットワークの強化が図られました。

（国際教育交流センター・国際交流オフィス学生交流推進課）

学生支援ステーション 「Station Cafe (第2回) (第3回)」開催

学生支援ステーションでは、大学の正課活動や課外活動以外に様々な学生が交流できる機会や場づくりの支援を積極的に行っています。

本年度第2回目として、6月27日(月)に、一枚の大きな画用紙に数名のグループでフィンガーペインティングとカッティング（切り絵）を行いひとつの作品を創作する「ファンタジー・グループ」を、第3回目として、7月27日(水)に、豊中緑化リーダー会の方々のご指導のもと、多肉植物とハーブの挿し穂を行う「園芸体験」を、学生支援コミュ

ニティスペース（学生交流棟2階）において開催しました。

それぞれの作業後にはカフェタイムを設け、出来上がった作品を鑑賞しながら、創作の感想を共有したり、豊中緑化リーダー会で活動されている人生の諸先輩方と語り合ったりするなど、参加者にとって貴重な経験が得られる催しとなりました。

今後も、定期的に Station Cafe を開催していく予定です。皆様の参加をお待ちしています。



皆で「から・フル」とタイトルを付けた作品



ハーブの挿し穂の様子

(学生支援ステーション／学生・キャリア支援課)

平成23年度(第33回) 基礎工学部公開講座「未来を拓く先端科学技術」開催

基礎工学部公開講座「未来を拓く先端科学技術」が、8月3日(水)～5日(金)の3日間にわたり、基礎工学国際棟において開催されました。

今年で33回を数える本講座は、基礎工学部からの情報発信の一環として1979年から毎年開催されており、地域社会と大学との連携を深めるための重要な役割を担っています。

今回は、基礎工学研究科及び情報科学研究科の教員9名が、自らの研究成果や科学技術について、当該研究分野の歴史にはじまり最新の動向まで、分かりやすく講義を行いました。また、講義終了後に実施した研究室見学も大変好評でした。

中学生から80代の方まで、145名の参加者が熱心に講義に取り組み、3日間の公開講座は盛況のうちに終了しました。



(基礎工学研究科・基礎工学部)

海外留学派遣前危機管理オリエンテーション及び教職員対象危機管理検討会実施

国際教育交流センターと国際交流オフィス学生交流推進課が協力して、今年の夏以降に海外に交換留学や研修等で派遣する予定の学生を対象に海外危機管理の専門家をお招きし派遣前オリエンテーションを8月5日(金)、大阪大学会館講堂にて学生237名及び各部局の派遣プログラム担当教職員など12名の計約250名が参加して実施しました。

海外留学生安全対策協議会理事の服部誠氏による海外留学・研修のリスク・マネジメントについてのご講演に続いて、瀬戸山晃一国際教育交流センター准教授が、渡航前の準備と海外留学・研修中の健康管理並びに法的トラブル予防と対策について解説し、海外渡航中の犯罪やテロ対策や健康管理や感染症その他、生活の面での安全対策などにおいて注意すべき点について説明しました。また、田中知恵学生交流推進課主任から事務サイドの面より手続き等において注意すべき点について説明があり、その後、参加学生



海外留学派遣学生等対象派遣前危機管理オリエンテーションの様子



派遣プログラム担当教職員対象危機管理検討会の様子

からの質疑応答を行われました。

また7月実施の海外帰国者スピーチコンテストで最優秀賞を受賞した国際公共政策研究科修士1年の神坂仁美さんと、優秀賞の外国語学部4年の平松志穂さんが、これから渡航する学生対しに安全上の注意点などを自らの体験談を交えて語っていただきました。

また、オリエンテーションに先立ち、大阪大学会館セミナー室2において、本学の派遣留学プログラムを主に担っている教職員スタッフ11名が参加し、各種海外留学・研修プログラムの運営・実施時における危機管理・安全体制のありかたについて、お招きした服部誠氏を囲んで指導・助言をいただきながら意見交換を行い、現状を分析するとともに、より万全で具体的な方策や組織的対応に係る検討を行いました。

(国際教育交流センター・国際交流オフィス学生交流推進課)

大学間・部局間交換留学予定学生と帰国学生との交流会開催

大学間や部局間の学生交流協定で1学期間から1年間の海外交換留学を経験し帰国した学生と、1学期間以上の交換留学が内定し、この夏以降に派遣予定の学生との交流会が8月5日(金)スチューデントコモンズ1階にて開催されました。

本企画は、国際教育交流センターが国際交流オフィス学生交流推進課の協力を得て、実施をはじめて今年で3年目になるものです。

交流会は、留学先の地域や国や大学に分けて、帰国学生とこれから留学を開始する学生が情報交換を行い、大学間・部局間交換留学を実際に経験し帰国した学生から、渡航前にしておく留学準備や特定の国や大学の情報を聞き、これから留学を開始する学生が充実した留学生生活をスムーズに開始するための助けとすることを主たる目的としています。また同時にこの企画は、本学からの海外交換派遣留学者数が増大している現状にあって、様々な国や地域に留学した



交換留学帰国学生と派遣前学生の交流会の様子

経験者同士のグローバルな人的ネットワークを構築することも趣旨の一つとしています。今年度は、帰国学生と海外留学予定者を合わせて30名以上の学生が参加しました。

(国際教育交流センター・国際交流オフィス学生交流推進課)

学生支援ステーション 「フロントスタッフミーティング(第3回)」を開催

学生支援ステーションでは、8月10日(水)に、各学部・研究科等から40名を超えるフロントスタッフの皆さんの参加のもと、フロントスタッフミーティング(第3回)とそれに続く講演会を、本部事務機構401会議室において開催しました。学生からの進路に関する相談の複雑化・件数増加、障害を有する学生のサポート充実や、複数の学部にもまたがる対応事案が発生している現状を鑑み、各学部・研究科等で対応にあたる教職員(フロントスタッフ)が相互に情報を共有することで、学生生活上の問題の予防や、問題発生時の対応を迅速化することを目的に実施しています。

今回は、講演会の講師として神戸学院大学の水田一郎教授をお招きし、「大学生の不登校・ひきこもり その実態と支援の現状・課題」と題した講演会を併せて開催し、講演後の質疑応答を含めて有意義なものとなりました。今後も定期的にフロントスタッフミーティングを開催し、全学的・横断的な連携と情報等の共有を進めていく予定です。



講演中の水田一郎教授

(学生支援ステーション／学生部学生・キャリア支援課)

平成23年度 日本語日本文化教育センター留学生修了式挙行

日本語日本文化教育センターでは、8月19日(金)に短期留学プログラムであるメイプル・プログラム生の修了式を、9月9日(金)には日本語・日本文化研修留学生の修了式を本センター多目的ホールにおいて挙行了しました。

本センターでは、本学と協定を締結している海外の大学からの交換留学生に対し、1年間の日本語・日本文化に特化した短期留学プログラムであるメイプル・プログラムを提供していますが、この度、52名が無事修了しました。

また、日本語・日本文化研修留学生プログラムには、海外の大学で日本語や日本文化を専攻している学生で、将来日本との架け橋として日本研究の機関や日本企業での活躍が期待される学生を国費留学生として受け入れ、1年間の



教育を提供していますが、この度、44名全員が無事修了を迎えました。

修了式では、奥西峻介センター長から修了生一人ずつに修了証書が渡され、式辞が述べられた後、3名の修了生代表により日本語で1年間を振り返るスピーチが行われ、最後に在学生在を代表して国費学部留学生からの心温まる送辞の後に閉式となりました。

その後、箕面福利会館において修了祝賀会を開催しましたが、留学生は、指導教員や地域ボランティアの方々、また友人達と記念撮影をして修了を喜ぶとともに、別れを惜しんでいました。

(日本語日本文化教育センター)



関西地区進路指導担当教諭対象大阪大学説明会実施

広く大阪大学を知っていただくために、オープンキャンパス、教員の出身高校訪問、外部で開催される進学ガイダンスへの参加、ホームページの充実等、さまざまな機会を



捉えて受験者、保護者に向けて本学の教育・研究の情報を発信しているところです。

一方、高校生にとっての情報の入手先は、高校の先生方からが圧倒的とされています。一方で高校の先生方に本学の最先端の研究、教育内容・環境等、本学の概要・特徴が理解されていない現状もあることから、8月20日(土)グランキューブ大阪にて、参集いただいた約50名の関西地区高等学校の進路指導教諭を対象に本学の説明会を開催いたしました。

説明会は鷺田総長による講演「大阪大学の目指すもの」、小泉潤二理事・副学長による大阪大学説明に引き続き、各学部の教員による各学部の教育・研究内容の紹介という内容で行われました。合間の休憩時間や閉会後には高校の先生方からの熱心なご質問をいただき、盛会のうちに終了しました。

(学生部入試課)

2011年 日韓共同理工系学部留学生事業推進フェア

8月28日(日)、日韓両国政府の奨学金によって韓国の高卒卒業生100名程度を日本の国立大学理工系学部に入入れる事業(日韓理工系学部留学生事業)の推進フェアが、韓国ソウルの国立国際教育院で行われました。日本から30校(その他資料参加のみ7校)が参加した同フェアでは、同事業の第2次第3期筆記試験合格者とその保護者を対象に、日本側各大学がそれぞれのブースで各々の研究・教育の特徴をアピールしました。また、今年度より各大学がそれぞれの特色をアピールする一分間スピーチも初めての試みとして実施されました。



本学からは、留学生受入部局である卓妍秀理学研究科特任助教、藤田清土工学研究科准教授、熊谷悦生基礎工学研究科講師のほか、受入事務を担当する国際部学生交流推進課の担当者、また当日の通訳として本学在学中の本事業学生(工9期生、基8期生)が参加し、各学部の特色を熱心に説明しました。このほかにも、本学在学中の韓国人留学生2名、及び本年10月から来学予定の第2次第2期生6名のうち3名が応援に駆けつけてくれました。当日は筆記試験合格者150名のうち約70名が本学ブースを訪問し、盛況の裡にフェアは終了しました。



(国際交流オフィス学生交流推進課)

社会経済研究所 第8回行動経済学研究センターシンポジウム開催

8月24日(水)、社会経済研究所主催で、中之島センター 佐治敬三メモリアルホールにおいて『行動経済学で地震に備える』と題してシンポジウムを、開催しました。

本シンポジウムは、新しい学問分野である行動経済学の現代社会への有用性や魅力を、一般に紹介することを目的として平成16年から毎年開催され、学生、研究者から一般の方まで、多くの方々に参加いただきました。

第8回目となる今回は、震災への備えをテーマに取り上げ、行動経済学という人間行動の特性を前提にした地震対策のあり方を研究してきた齊藤誠一橋大学大学院経済学研究科教授による「緩やかな介入主義で行こう」と、中川雅之日本大学経済学部教授による「人はなぜ耐震マンションを選ばないのか」という二人の専門家の講演の後、大竹文雄・センター長の司会で一般参加者を含めて議論が行われました。



来場者数は130名を数え、また、会場からは多くの質問が寄せられ、行動経済学に対する関心の高さが伺われるシンポジウムとなりました。

(社会経済研究所)

平成23年度 「生涯生活設計セミナー」(退職準備セミナー)開催

8月31日(水)、文部科学省共済組合・大阪大学主催、大阪教育大学・和歌山大学・国立民族学博物館・和歌山工業高等専門学校・国立国際美術館共催による平成23年度「生涯生活設計セミナー」(退職準備セミナー)が基礎工学研究科国際棟Σ(シグマ)ホールにおいて開催されました。

このセミナーは、概ね58歳以上の国立大学法人等の教職員並びにその配偶者を対象に行われたもので、退職後の生活設計に必要な知識などを提供することにより社会生活、家庭生活の基礎づくりのための支援を行うことを目的として開催されたものです。今年度は、約70名の参加者があり、

退職後の生活設計についての関心の高さをうかがわせました。

尾山理事による開会挨拶の後、財団法人教職員生涯福祉財団のセミナー推進員による退職後の「生活設計」「健康管理」「生きがい」「経済生活」など充実した内容の講義等が行われました。

セミナー後に実施したアンケートでは、「知らなかった事も多く、色々勉強になって良かった。」「楽しくて、分かりやすかった。」「講師の方のお話が非常に興味深く、期待以上だった。」等の感想が寄せられました。



(総務企画部人事課)

第61回 教職員懇親会開催

毎夏の恒例行事である教職員懇親会が9月5日(月)にアサヒビール株式会社吹田工場ゲストハウスにおいて開催されました。この懇親会は、昭和25年から続く伝統ある行事で、アサヒグループ各社のご厚意により毎年行われているものです。当日は、平野俊夫総長、恵比須繁之理事・副学長、東島清理事・副学長、馬場彰夫理事・副学長、相本三郎理事・副学長、阿倍顕三理事・副学長、尾山眞之助理事・副学長、江口太郎理事・副学長、高橋明理事・副学長、関順一郎監事をはじめ、名誉教授、退職事務職員及び現職の教職員124名の参加がありました。また、アサヒグルー



プ関係各社からはアサヒグループホールディングス株式会社川面克行常務取締役のほか本学の卒業生を含む関係者に出席いただきました。

懇親会は、川面常務取締役及び平野総長の挨拶に次いで、第12代総長の熊谷信昭先生発声による乾杯で始まり、途中抽選



会が催されるなど終始和やかな雰囲気の中、出席者は互いの親睦を深め盛会のうちに終了し、有意義なひとときを過ごしました。

(総務企画部総務課)

大阪大学職員のための英語プレゼンテーション能力養成研修について

9月13日(火)、銀杏会館において大阪大学職員のための英語プレゼンテーション能力養成研修を実施しました。本研修は、国際交流業務に関心のある職員を対象とし、情報発信能力を向上させることを目的として実施するもので、今年で4回目の開催となりました。

昨年に引き続き、初級から中級者向けの導入コースと中級から上級者向けの応用コースに分けて実施し、導入コースは計23名、応用コースは計14名の合計37名が参加し、業務における英語の必要性および関心の高さがうかがわれました。

研修では、高橋 明国際交流室長の挨拶の後、Robert Bryan Perkins 先生による講義、グループワーク等が行われ、受講者は講義で学んだ技法を用いて、実際にプレゼンテーションを行いました。受講者の多くから、大変有意義な研修であったこと、また、次回も是非受講したいという感想



をいただき、好評を博しました。最後に、向井弘志国際交流課長の総括により研修は終了しました。

(国際企画推進本部、国際交流課)

オープンキャンパス(大学説明会)

8月8日(月)から23日(火)の間の9日間に学部毎(11学部と保健学科)にオープンキャンパス(大学説明会)を開催しました。

今年も多く参加があり、昨年とほぼ同数の22,798名の方々にご来場頂きました。

学部紹介、施設の公開、模擬授業、在学生による説明等、各学部で工夫をこらしたプログラムを企画し、参加した高校生、保護者等はどの会場でも熱心に聞き入っていました。毎年増加する多数の参加者に対応するため、事前申し込み制を導入する学部もありました。

また、各学部のプログラムと並行して開設された現役学生企画の個別相談コーナーも年々相談者が増え、今年は約1,300名の受験生等が受験勉強や大学生活に関する質問をし、学生達は実体験を交えながらアドバイスしていました。



8月8日(月) 人間科学部



8月9日(火) 外国語学部



(学生部入試課)

「主要大学説明会」等学外進学ガイダンスへの参加

7月30日(土)から9月19日(月)の間、東京大学主催の「主要大学説明会2011」が全国7会場(札幌・仙台・東京・名古屋・大阪・岡山・福岡)で開催され、本説明会開始当初から参加している本学は、昨年に引き続き全会場に参加しました。

今年で7回目となる本説明会は、年々高校生や保護者等の関心が高まっており、今年のはべ10,000人を超える多数の参加が有り、会場によっては本学が用意した各大学案内等の資料も殆ど無くなってしまいました。

説明会は教育担当副学長・理事の大学説明講演とブースでの個別相談で構成され、小泉理事・副学長、高杉理事・副学長と東島理事・副学長がそれぞれ担当の会場で、高校生等に向け、本学からのメッセージを発信いたしました。

地元大阪会場では本学歯学研究科並びに工学研究科の学生も参加し、パネルディスカッション方式による「現役大学生の体験談」では多くの高校生が熱心に聞き入っていました。

また、入試広報小委員会の委員、入試課職員、本学学生で対応した個別相談ブースでは、大学の教職員や学生から直接話が聞ける貴重な機会として、各会場とも多数の高校



生等が資料を見るだけではわからない疑問点を質問していました。

本説明会を含め、本学では入試広報小委員会委員、本学学生の協力体制のもと、毎年多数の学外進学ガイダンスに参加しており、その参加件数も年々増加し、今年は26会場となりました。

今後も優秀な学生の確保にむけ、本学の入試広報活動を進めます。

(学生部入試課)

平成23年度 第1回男女共同参画セミナー

多様な人材活用推進本部男女共同参画推進オフィスは、10月3日(月)に銀杏会館大会議室において、標記セミナーを開催しました。

毎年度2回開催している本セミナーですが、今回は「仕事・家庭の両立と男女共同参画」をテーマに、本学蛋白質研究所の篠原美紀准教授と本部事務機構の則末尚志特任研究員を講師として、それぞれお話を伺いました。

まず、篠原講師からは、これまで研究と家庭・子育てを両立しながら、研究成果を上げていかれた経緯やその苦労話などを具体的なエピソードを交えてご講演いただき、参加者の関心を呼んでいました。

また、則末講師からは、吹田キャンパスに設置されている2つの保育園の設置経緯や利用状況についてお話があり、さらに、早ければ来年度に豊中キャンパスに開設予定の新たな保育園について、概要の説明をいただきました。



篠原美紀准教授

特に、新設の保育園については、参加者の期待も大きく、みなさん真剣にお話を

聞いておられました。

続いて、本学で働きながら子育て及び介護に取り組んでいる教員に好評の制度である、「研究支援員制度」



則末尚志特任研究員

について、実際に利用されている研究者と支援を行っている学生にご登場いただき、普段の支援の様子や、今後の展望など様々なお話を伺いました。

本セミナーには、学内・学外を問わず、多数の教職員や学生が参加し、熱気あふれるセミナーとなりました。

セミナーの最後には、質疑応答の時間が設けられましたが、参加者と講演者との活発な意見交換が行われ、これから子育てや介護に関わる可能性がある参加者にとって、大変意義深い講演となりました。

本学における男女共同参画を推進するため、男女共同参画推進オフィスでは今後もセミナー・シンポジウムを開催いたします。次回第2回のセミナーは3月に実施予定です。興味を持たれた方は教職員・学生・男性・女性を問わず、ぜひご参加ください。

(総務企画部多様な人材活用推進支援室)

グローバル30学部・大学院英語コース入学式が挙行されました

10月3日(月)に、グローバル30により設置された学部・大学院英語コースの入学式が、東島清教育担当理事(インターナショナルカレッジ長)、高橋明国際担当理事、中道正之人間科学研究科副部長、篠原厚理学研究科長、掛下知行工学研究科長、岡村康行基礎工学研究科長のほか学部英語コース長及び大学院英語コース長ら関係者の出席のもと、基礎工学部国際棟にて挙行されました。

当日は、学部英語コースである「人間科学コース」及び「化学・生物学複合メジャーコース」に入学した計21名の



学部英語コース

ほか、大学院英語コースである「統合理学特別コース」及び「国際物理特別コース」に入学した計11人の留学生が顔をそろえ、挨拶に立った各理事や各コース長からは、入学を祝う言葉とともに、これからの勉学に対する心構えなどが訓示されました。

入学式終了後は、列席の方々を交えての記念撮影が行われました。

爽やかな秋晴れの下、新入生は大きな希望を胸に新生活への第一歩を踏み出しました。



大学院英語コース

(国際交流オフィス学生交流推進課)

2011年度 グローニンゲン大学短期語学研修実施

今年度で第6回目となるグローニンゲン短期語学研修が、オランダ・グローニンゲン大学にて8月22日(月)から9月11日(日)までの3週間実施されました。今回は、外国語学部3名、法学部3名、経済学部、文学部各1名の計8名の参加がありました。英語の授業は、英国人講師によるプレゼンテーション、米国人講師によるライティングを中心に、13コマ行われました。当初は、英語で積極的に発言できなかった参加学生が、最終発表のプレゼンテーションでは一人約10分間堂々とプレゼンテーションできるまでになりました。また、事前アンケートにより希望の多かったユトレヒト、

アムステルダムへのエクスカーシンのほか、オランダ人家庭訪問、近郊の日系企業（キッコーマンヨーロッパフーズ）訪問、オランダの干拓の歴史学習のバス研修旅行等があり、イベントも充実しているのが本プログラムの魅力の一つです。その他、英語授業以外にもオランダ学講座、日本人講師による講義も開講されています。

「オランダはどこでも英語が通じるのでお勧めです」という参加学生からの感想も多く、将来長期留学を考えられている学生の皆様のファーストステップとしても自信を持ってお勧めできるプログラムです。



(グローニンゲン教育研究センター)

日本語日本文化教育センター教育関係共同利用拠点事業説明会の開催

日本語日本文化教育センターでは、9月16日(金)に日本語日本文化教育センター多目的ホールにおいて、教育関係共同利用拠点事業説明会を開催しました。

この説明会は、日本語日本文化教育センターが、平成23年4月1日付けで学校教育基本法施行規則第143条第2項に基づく教育関係共同利用拠点（日本語・日本文化教育研修共同利用拠点）として認定を受けたことに伴い、今後、日本語教育の中心的拠点としての活動を展開していくため、主として近隣における国・公・私立大学の関係教職員への事業説明と意見聴取の場として開催されたものです。

当日は、他大学関係教職員、拠点運営委員会委員、本センター教員等、60名以上が集まり、奥西峻介センター長・拠点長の挨拶の後、文部科学省高等教育局大学振興課の高



橋浩太郎氏から教育関係共同利用拠点制度について、また、同局学生・留学生課の石川真理氏から最近の留学生施策の動向及び留学生への日本語教育について説明があり、引き続き、本センターの加藤均教授から共同利用に関する説明が行われました。

また、質疑応答では、拠点の教育プログラムに関する内容等について予定時刻ぎりぎりまで活発な意見が出されました。

説明会の後は、箕面福利会館において情報交換会が催され、他大学関係教職員が本センター教員と情報交換を行ったり、国・公・私立の大学間で情報を共有したりし、盛況の中、閉会となりました。

(日本語日本文化教育センター)



七大戦 初の連覇! (第50回全国七大学総合体育大会)

毎年、本学および北海道、東北、東京、名古屋、京都、九州の7国立大学の運動部が競い合う全国七大学総合体育大会（通称：七大戦）は、本年で第50回を数え、本学が昨年に続き、見事、総合優勝を飾りました。

今大会は、北海道大学の主管により、7月2日(土)の開会式から9月24日(土)の閉会式まで全41競技が行われ（一部競技は開会式以前に実施）、本学は、少林寺拳法部の4連覇、陸上競技部男子の3連覇など8競技で優勝、他の競技も実力をいかんなく発揮しました。最後までもつれ込む接戦となりましたが、総合得点217点を獲得し、2位（北海道大学）とは3点差での優勝となりました。

今回の優勝により、通算総合優勝回数は7回となりました

たが、今回は本学にとって初の連覇で、しかも主管校以外の大学が優勝する、いわゆる「主管破り」としても2年連続という快挙となりました。



第50回全国七大学総合体育大会成績表

最終結果（平成23年9月21日）

大学名		北海道大学		東北大学		東京大学		名古屋大学		京都大学		大阪大学		九州大学	
競技種目		順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点
アイスホッケー		1位	10	6位	2	3位	6	5位	3	7位	1	2位	8	4位	4
スキー		不参加	0	不参加	0	3位	6	2位	8	4位	4	1位	10	5位	3
航空		7位	1	4位	4	3位	6	1位	10	2位	8	5位	3	6位	2
馬術		5位	2	3位	4	2位	6	1位	8	4位	3	該当団体なし		6位	1
柔道		2位	8	3位	5	6位	1.5	1位	10	6位	1.5	3位	5	5位	3
バスケットボール	男子	2位	8	5位	3	3位	6	1位	10	4位	4	6位	2	7位	1
	女子	2位	8	7位	1	5位	3	6位	2	1位	10	4位	4	3位	6
ヨット		3位	6	5位	3	6位	2	7位	1	2位	8	4位	4	1位	10
少林寺拳法		6位	2	4位	4	2位	8	7位	1	3位	6	1位	10	5位	3
硬式テニス	男子	7位	1	5位	3	3位	6	1位	10	6位	2	4位	4	2位	8
	女子	3位	6	6位	2	5位	3	4位	4	2位	8	1位	10	不参加	0
空手道	男子	3位	6	7位	1	1位	10	6位	2	4位	4	2位	8	5位	3
	女子	該当団体なし※		6位	1	3位	4	4位	3	2位	6	1位	8	5位	2
剣道	男子	1位	10	4位	4	7位	1	2位	8	5位	3	3位	6	6位	2
	女子	2位	8	7位	1	4位	4	6位	2	5位	3	3位	6	1位	10
水泳	男子	7位	1	5位	3	6位	2	3位	6	1位	10	2位	8	4位	4
	女子	1位	10	7位	1	4位	4	6位	2	3位	6	2位	8	5位	3
陸上競技	男子	6位	2	3位	6	4位	4	5位	3	2位	8	1位	10	7位	1
	女子	2位	8	4位	4	6位	2	1位	10	3位	6	5位	3	7位	1
ラクロス	男子	5位	3	3位	6	4位	4	2位	8	1位	10	不参加	0	不参加	0
	女子	2位	8	不参加	0	不参加	0	不参加	0	1位	10	3位	6	不参加	0
バレーボール	男子	5位	3	1位	10	2位	8	6位	2	3位	6	7位	1	4位	4
	女子	2位	8	7位	1	6位	2	4位	4	1位	10	5位	3	3位	6
硬式野球		2位	8	不参加	0	1位	10	3位	6	不参加	0	4位	4	不参加	0
バドミントン	男子	3位	6	4位	4	6位	2	7位	1	5位	3	1位	10	2位	8
	女子	1位	10	6位	2	3位	6	2位	8	7位	1	4位	4	5位	3
準硬式野球		2位	8	3位	6	5位	3	7位	1	4位	4	1位	10	6位	2
ハンドボール		7位	1	4位	4	5位	3	1位	10	3位	6	2位	8	6位	2
フェンシング		該当団体なし		2位	4	3位	3	該当団体なし		1位	6	4位	2	5位	1
弓道	男子	1位	10	2位	8	3位	6	4位	4	5位	3	7位	1	6位	2
	女子	2位	8	1位	10	6位	2	5位	3	4位	4	7位	1	3位	6
相撲		該当団体なし		3位	4	1位	8	2位	6	6位	1	5位	2	4位	3
アーチェリー		5位	3	4位	4	2位	8	3位	6	6位	2	1位	10	7位	1
ソフトテニス	男子	5位	3	1位	10	6位	2	7位	1	3位	6	2位	8	4位	4
	女子	2位	8	1位	10	6位	2	4位	4	5位	3	3位	6	7位	1
ゴルフ		1位	10	4位	4	5位	3	2位	8	6位	2	7位	1	3位	6
ソフトボール		該当団体なし		6位	1	4位	3	3位	4	2位	6	5位	2	1位	8
自動車		1位	10	7位	1	4位	4	6位	2	5位	3	2位	8	3位	6
卓球	男子	6位	2	3位	6	1位	10	2位	8	7位	1	4位	4	5位	3
	女子	4位	4	1位	10	7位	1	3位	6	6位	2	5位	3	2位	8
体操		4位	4	6位	2	不参加	0	5位	3	2位	8	3位	6	1位	10
総合得点		214		159		174.5		198		198.5		217		151	
順位		2位		6位		5位		4位		3位		1位		7位	

※ 空手道女子の部：北大は、人数不足により「参加不能な団体」として扱う。

(学生部学生・キャリア支援課)

総長等への表敬訪問

インドネシア・ボゴール農科大学副学長の表敬訪問について

7月22日(金)Anas Miftah Fauzi ボゴール農科大学副学長が、辻毅一郎理事・副学長を表敬訪問されました。本学からは、Clement Angkawidjaja インターナショナルカレッジ特任教授、住吉賢司国際交流課長補佐が同席し、大学間の協力関係について意見交換が行われました。



記念品の交換を行うAnas Miftah Fauziボゴール農科大学副学長(左)辻毅一郎理事・副学長(右)

中国・華中師範大学長の表敬訪問について

7月26日(火)馬 敏学長をはじめ中国・華中師範大学御一行が、辻毅一郎理事・副学長を表敬訪問されました。本学からは、高橋 明世界言語研究センター長、木村茂雄言語文化研究科長、杉村博文言語文化研究科教授、田中仁法学研究科教授、向井弘志国際交流課長が同席し、今後の大学間協定締結や、学生や研究交流の発展に向けて積極的な意見交換が行われました。



前列右：馬 敏華中師範大学長
左：辻毅一郎理事・副学長

台湾・国立中正大学御一行の表敬訪問について

8月23日(火)呉 志揚学長、鄭 友仁副学長をはじめ台湾・国立中正大学御一行が、辻毅一郎理事・副学長を表敬訪問されました。本学からは、高橋 明世界言語研究センター長、東島 清理学研究科長、中尾敏充法学研究科長、三阪佳弘高等司法研究科副研究科長、向井弘志国際交流課長が同席し、アジア全体のネットワークの拡大を目指した学術交流促進について意見交換が行われました。また、この懇談の前には、法学研究科と部局間学術交流協定が結ばれ、今後は両大学のますますの交流が期待されます。



記念品を受け取る辻毅一郎理事・副学長(左)と
呉 志揚国立中正大学長

イギリス・リーズ大学御一行の表敬訪問について

9月5日(月)Peter Jimack 工学部長をはじめイギリス・リーズ大学御一行が、高橋 明理事・副学長を表敬訪問されました。本学からは、花崎喜代治産学連携本部客員教授、村上伸也歯学研究科教授、向井弘志国際交流課長が同席し、現在の部局間協定から大学全体の学術・研究交流を目指した大学間協定の締結に向けて懇談が行われました。この懇談の前には、御一行は産業科学研究所や工学研究科を訪問され、研究に関する意見交換を行いました。



中央右：Peter Jimack リーズ大学工学部長
左：高橋 明理事・副学長

在メルボルン日本国総領事の表敬訪問について

9月8日(木)在メルボルン日本国総領事館・側嶋(そばしま) 秀展総領事が、高橋 明理事・副学長を表敬訪問されました。懇談には保坂 淳核物理研究センター教授、有川友子国際教育交流センター教授、平田公明学生交流推進課長らが同席し、側嶋総領事からご就任の挨拶があった後、本学とオーストラリアの大学との交換留学について、またモナシュ大学での語学研修プログラムについて本学より説明を行いました。



記念品を贈呈する高橋明理事・副学長(右)
在メルボルン日本国総領事館・側嶋秀展総領事(左)

ドイツ・フランクフルト(ゲーテ)大学副学長の表敬訪問について

9月12日(月)大学間協定を締結しているドイツ・フランクフルト(ゲーテ)大学のProf.Dr.Rainer KLUMP 副学長が、平野俊夫総長ならびに高橋 明理事・副学長を表敬訪問されました。本学からは、協定のコンタクトパーソンである HORIOKA CHARLES-YUJI 社会経済研究所教授、近藤佐知彦国際教育交流センター教授、今井京子国際交流課長補佐が同席し、学術交流協定に基づいた交流の実績や今後の交流促進について意見交換が行われました。その後の懇談では、宇野公之薬学研究科教授も同席し、両大学の薬学分野における関係強化に向けて意見交換が行われました。



前列中央右左：Rainer KLUMP フランクフルト
(ゲーテ) 大学副学長 右：平野 俊夫総長

タイ王国・マハサラカム大学御一行の表敬訪問について

9月13日(火)Supachai Samappito 学長、Sujin Butdisuwan 副学長をはじめタイ王国・マハサラカム大学御一行が、高橋 明理事・副学長を表敬訪問されました。本学からは東島 清理事・副学長、窪田高弘大学教育実践センター教授、藤山和仁生物工学国際交流センター教授、向井弘志国際交流課長、平田公明学生交流推進課長が同席し、授業面でのマネジメント方法、教育評価、大学教育の保証、学術交流等について懇談が行われました。その後、御一行は、学生同士が知識を求め共に考える場となるよう造られたスチューデント・コモンズやラーニング・コモンズを見学し、職員の説明に熱心に耳を傾け、また、同施設の環境について学生に質問するなど、本学の学習システムに非常に興味をお持ちでした。



懇談後の記念撮影(於：大学会館)

在阪報道各社と大阪大学との懇談会開催

9月6日(火)中之島センターにおいて、本学の最新の教育・研究活動について情報発信するとともに、報道関係者との意見交換を目的とした「在阪報道関係者との懇談会」を開催しました。

今回の懇談会は新執行部が初めてマスコミ各社と意見交換する場となるため、平野俊夫総長、江口太郎理事・副学長、東島 清理事・副学長、相本三郎理事・副学長、阿部顕三理事・副学長、尾山眞之助理事・副学長、高橋 明理事・副学長、江川 温総長補佐、瀧原圭子総長補佐、大和谷厚総長補佐が出席し、報道関係からは台風12号の被災地取材の影響もありましたが、5社、9名の出席いただきました。

はじめに、平野総長から自己紹介及び就任にあたっての抱負が述べられ、大学関係者及び報道関係者全員の自己紹介の後、「大阪大学の今後の取り組み」等について総長、各理事らと報道各社との意見交換が行われました。

また、懇親会は、大学・科学記者クラブ幹事社である読



懇談会で抱負を述べる平野総長



記者と情報交換をする平野総長



記者と情報交換をする江口理事・副学長

売新聞社の発声により乾杯で始まり、室会議を終えた恵比須繁之理事も駆けつけ、懇談会に引き続き本学関係者と報道各社の方々の活発な情報交換が行わる貴重な機会となりました。

(広報・社会学部・社会学部・社会学部)

大学院学位記授与式

9月20日(火)午前11時からコンベンションセンターMOホールにて、大学院学位記授与式が行われました。授与者は202名(修士54名、課程博士120名及び論文博士28名)を数え、修士及び博士の受領代表者20名に平野俊夫総長から学位記を授与されました。

列席した受領者には、総長からは修了者に対して、「大いなる誇りを持って世に出て責務を立派に果たしていただきたい。大いなる夢を持って輝ける未来に挑戦していただきたい」と式辞が述べられました。

(総務企画部総務課)



大阪大学大学院学位記授与式総長式辞



本日ここに大阪大学の修士／博士の学位記授与式に臨まれた皆さんに、心よりお祝いを申し上げます。また、幼少の頃からこれまで、皆さんの勉学を支えてこられましたご家族の方々の長きにわたるご苦労に対しましても、心より敬意を表したく存じます。

皆さんは、本日晴れて修士や博士の学位を取得され、今後社会の様々な分野で、その培った知識と経験に基づき活躍することが期待されています。一人一人が、それぞれの思いを抱きこれからの進むべき道に夢を膨らませておられることと思います。

私が皆さんに期待することがあります。それは、いかなる分野に進もうとも、常にその分野を極めていただきたい、その分野の信頼されるリーダーに成っていただきたい、そのために、誰にも負けない知識と経験、技量を積み、成果をあげるべく日夜励んでいただきたいということです。これまで学んで来られたことは、まだ学問や科学のほんの一端に過ぎません。言い換えればまだ入口に差し掛かったところと言えるでしょう。これからの長い道のりを、切磋琢磨し新しいことに向かって常に挑戦していただきたいと思います。

また皆さんの心に是非とも刻ざんでいただきたい言葉があります。それは「ノブレス・オブリージュ（Noblesse oblige; noble obligation）」という言葉です。「高貴さは責務を伴う」というような意味です。すなわち選ばれた人には、それに相当する責務が求められるということです。ノブレス・オブリージュについて皆さんと一緒に考える前に、少し大阪大学の歴史、皆さんの先輩が歩んで来られた長い道のりをお話したいと思います。

大阪大学では、大学は「学問と教育の府である」、アカデミズムを追求することこそが、我々大学人に課せられた

使命であるという理念のもと、「日本だけではなく世界の学術のリーダーたるべきである」という高い志をもって、さらなる飛躍をはかる努力を行ってきました。そして、今年、大阪大学は創立80周年という節目の年を迎えました。「大阪にも帝国大学を」という地元大阪府民の熱意と、当時の大阪府立医科大学長の楠本長三郎や大阪府知事の柴田善三郎ら関係者の努力により、1931年、医学部と理学部の2学部からなる「大阪帝国大学」が、長岡半太郎初代総長の下、我が国第6番目の帝国大学として誕生しました。

江戸時代末期、緒方洪庵が「新知識をもって世の中の人を救う」ことを目的に私塾として設立した「適塾」の自由な学問的気風と先見性は、大阪府立医科大学を経て、医学部と理学部へと繋がります。翌々年には大阪工業大学が工学部として加わりました。戦後、新たに法文学部が加わった際に、江戸時代後期、大坂町人が町人のために漢学と国学などを伝習した「懷徳堂」の蔵書類が、懷徳堂文庫として本学に寄贈され、大坂の町に息づいた独創的な学問と思想・文化を受け継ぐに至りました。新制大学としてスタートした際には、法文学部を文学部と法経学部へ改組し、現在の総合大学としての骨格が整いました。

大阪外国語大学の前身である大阪外国語学校出身の司馬遼太郎が小説「花神」の冒頭で、適塾を大阪大学の「前身」、緒方洪庵を「校祖」と表現しています。このように、「適塾」を原点として、「懷徳堂」の精神を受け継ぎ、大阪府民の熱意に支えられた本学は、「地域に生き世界に伸びる」をモットーに、2004年の国立大学法人化、2007年の大阪外国語大学との統合を経ながら、我が国を代表する総合大学として、世界に向かってたゆみなく発展を遂げて参りました。そして幾多の優れた研究者、教育者、文化人、そして政財界など各界の指導者や卓越した人材を世に輩出してきました。大阪大学は、創立80周年を機に「原点へ・未来へ」をタイトルに掲げ、大学のあるべき姿をその原点に見出し、その原点に立ち未来へ飛躍しようとしています。

一方、わが国の歴史を紐解くと、150年ほど前の江戸時代末期には、安政の東海地震や南海地震、江戸地震と三つもの大きな地震が日本を次々と襲う中、当時は国外からの開国の圧力もあり、江戸300年の太平の世に甘んじていた江戸幕府率いる時の政府は、なす術を知らず国の存亡の危機を迎えました。このとき、土佐藩の坂本龍馬はじめ適塾出身の福沢諭吉や大村益次郎などの若者が大活躍し、明治維新の国難を乗り越え近代化を果たすことができました。66年前には第二次世界大戦に敗北し、またもや国家存亡の危機を迎えましたが、奇跡とも言われる戦後復興を見事に果たしました。

そして、今3度目の危機を迎えています。3月11日に東日本大震災が日本を襲い、さらに追い打ちをかけるように

原子力発電所の重大な事故が起きました。現実とは思えない悪夢からすでに6ヶ月が経っても、なお多くの地域が復興の見通しが立たずにいます。この危機を乗り越え、日本が再び明るい未来を切り拓くことができるか否かは、若い皆さん一人一人の双肩にかかっています。

我が国が存続・発展していくためには、学術や科学技術の振興が不可欠です。市民に信頼される学術・科学技術の振興なくして、革新的な技術開発や心豊かで平和な社会の発展はありません。社会が皆さんに求めているところは、大阪大学で養われた知的創造活動としての基礎研究や応用研究の更なる推進です。あるいは、様々な分野で責任あるリーダーとして社会に対する責務を果たすことです。このようなことは本学で研鑽を積み重ねた皆さんだからこそ成しうることです。これこそが「ノブレス・オブリージュ」です。皆さんは、伝統ある大阪大学で学んだ者として、大いなる誇りを持って世に出ていただきたいと思います。と、同時に、皆さんの責務を立派に果たしていただきたいと思います。

辛いことが続いている今年の日本ですが、なでしこジャパンの活躍で日本中が沸きかえりました。なぜ人々はオリンピックや世界選手権などのスポーツ選手の活躍に感激するのでしょうか？ 人々は、彼らが日頃汗水流して築き上げた素晴らしい技、技術に感動し、一つ一つのプレーに拍手を送ります。しかし単にそれだけでしょか？

私は見事なプレーに潜む“ひたむきな心”に人々は拍手を送り、感激するのだと思います。ただひたすら、日頃のトレーニングの成果を体全体で表現する、その純粋さと情熱、そして技術の高さが一体となり、そこからふつふつと湧き上がる、“心の震え”が、人々を虜にするのだと思います。言い換えれば子供のもつ純真な心、子供の目の輝きにも似ていると思います。何事も不可能を可能にする、子供のもつ力だと思います。

誰しも子供の時は、夢を持ちます。理想を心に抱きます。しかし、夢や理想は現実とあまりにもかけ離れており、それを容易には手に入れることができません。永遠に不可能



とすら思えます。だからこそ夢であり、理想なのです。人々は成長するにつけて、多くの厳しい現実を経験し、夢と現実の乖離の大きさを実感するに従い、一つ一つ夢を失って行きます。そして子供のもつ純粋さ、目の輝きを失って行きます。そして気がつけば当たり前の大人になってしまっています。そのような現実社会の中で、子供の心を見事に表現してくれるのが、スポーツの世界であると思います。人々は戦う選手の高い技術に裏打ちされた「ひたむきな心」に、子供の頃の夢を見だし感激するのだと思います。

皆さんにあり、私に無いもの、それは未来という無限の可能性です。そしてこれは、とりもなおさず子供のもつ純真さ、夢、目の輝きです。

これから皆さんは、企業や行政機関など第一線で活躍する社会人として、あるいは各種教育研究機関で次世代の人材を育成する教育者として、あるいは未来を切り開く研究者として、そして一人の人間として、長い人生を送られるわけですが、いつまでも“夢”を失わないでいただきたい。今の感激を忘れることなく、一瞬一瞬を大事にして、大いなる夢を持って輝ける未来に挑戦していただきたいと思います。

最後になりましたが、皆さんお一人お一人がこれからの長い生涯、幸運に恵まれ、悔いのない人生を送られることを祈りつつ、わたしの式辞といたします。

本日は誠にありがとうございます。

平成23年9月20日

大阪大学総長 平野 俊夫



「総長お薦め講義」最終回

7月28日(木)、大阪大学会館の講堂にて、400名を超える学生が聞き入るなか、鷺田前総長による学生向け最終講義が行われました。これは、「高度教養教育プログラム：知のジムナスティクス」として開講された「総長お薦め講義：尖った知性、タフな意志、震える感受性を磨く」の最終回を、学生からの強い要望により公開授業としたもので、二人の学部生が司会を担当しました。



講義タイトルにもあるように、「尖った知性、タフな意志、震える感受性を磨いてほしい」との阪大生に対する期待を、学生時代の思い出などを含めながら、語りかけられました。

学生からワニ博士のぬいぐるみが手渡された後、鷺田前総長が命名されたステューデント・コモンズ「カルチエ」にて懇親会が行われました。

(大学教育実践センター)

鷺田総長最終講義 「大学と人文学」

広い意味で教養／人文学的素養と呼ばれてきたものは、日常生活のコンテクストに位置づけられていない知識に対して、問いがもっているコンテクストの大切さ、知識の背景にある知恵の大切さを思い起こさせるものです。私がメルロ＝ポンティから学んだ哲学は、物事／世界／歴史の意味を「生まれ出ずる状態」で捉えるという「開かれた知」で、それは鶴見俊輔が「人々の生活の作法から哲学を汲み取る」と述べた「風通しのよい知」のあり方に通じるものでした。そこからすると、人文学的素養とは、知識の所有量ではなく、何が大事で何が大事でないかという「価値の遠近法」を身につけること、あるいは、正解がないところで、問題の錯綜を無理矢理何かで割り切るのではなく、錯綜のなかでどれだけ耐えられるかという「知性の体力」を身につけることなのです。市民社会を生きる作法としてそのような教養が求められており、問題の全体が目に入るかどうかにかかわらず教養が働いているとも言えます。「アホになれんやつが、ほんまのアホや」と言われるように、学生の皆さんには、「アホ」という言葉で互いにリスペクトできる大阪的知性を教養のなかに含めて考えて欲しいと思っています。



鷺田総長最終講義平成23年8月4日大阪大学会館講堂にて

(文学研究科・文学部)

わしだ・きよかず

略歴：昭和24年京都府生まれ。京都大学大学院文学研究科単位修得退学。関西大学文学部講師、同助教授、大阪大学文学部助教授を経て、平成11年文学研究科教授。その後、大阪大学評議員、文学研究科長・文学部長、大阪大学理事・副学長、大阪大学総長などを歴任。専門は、現象学、哲学的モード論／顔論、臨床哲学。著書に、『分散する理性——現象学の視線』（サントリー学芸賞）、『現象学事典』（共編著）、『モードの迷宮』（サントリー学芸賞）、『顔の現象学——見られることの権利』、『「聴く」ことの力——臨床哲学試論』（桑原武夫学芸賞）、『〈弱さ〉のちから——ホスピタブルな光景』などがある。教育活動においても、『社会学連携』の理念のもと、市民とも積極的に交流する新しい大学人モデルを提示したほか、社会における活動としては、日本倫理学会会長、日本哲学会理事、アートミーツケア学会会長などを歴任したほか、サントリー学芸賞選考委員、京都賞選考委員、伊丹国際クラフト展審査委員長、読売新聞読書委員、朝日新聞論壇委員・書評委員をも務めた。学術行政への貢献についても、文部科学省子どもの徳育に関する懇談会委員・副会長、文部科学省大学問題懇談会委員、文部科学省第五期科学技術・学術審議会専門委員、内閣官房「21世紀日本の構想」懇談会委員、国立大学協会理事ならびに副会長などを務め、内閣府総合科学技術会議専門委員としては「ヒト胚の取り扱い方」についての答申執筆に参与した。時代をリードする先見性と多大な貢献を認められ、紫綬褒章（平成16年）を受章。

プロフィール